幕末・明治・大正

回顧八十年史

第二十三輯

東京・東洋文化協會・發行

◎内容解説◎

◎名士の遺墨

本輯にはオフセット二色版を以て幕末明治の名士一百有八名の遺筆を掲載して其風丰を偲ばんとするものである。此等の名士の肖像及び行動は既に本史に掲げてあるが今、墨色淋漓たる遺筆を見れば、眞に其全人格を反映して興味津々として盡きず、維新史の裏面を語るものとして又、名士の行藏を知る點に於いて蓋し絶好の資料だと信ずる。

◎『幕末志士血盟狀』

幕末尊攘論の沸騰せる時、其最も盛なりしは長州藩であった。而して積極的に攘夷を主張する主戰黨と、軟論を主張する俗論黨とは互に軋轢して居つたが、主戰黨は神明に誓つて血盟狀を作り、加盟者には高杉晉作を始め久坂玄瑞、尾庸造、品川彌二郎等あり又、書中には『我々死生を同し正氣を維持するに付而者いか計離流顚沛に逢ふとも尊攘之志屈し撓べからず……』とあり、壯烈なる意氣紙上に横溢して居る。今、井上侯爵家の祕藏である。

◎佐田介石著『身代限を釀す所以の圖』

佐田介石は肥後熊本の眞言派の奇僧である。明治九年に『須彌地球熟妄論』と云ふものを書いて地平論を唱へ諸國を遊歷してまはつた。十年『視實等象儀詳說初篇（天地共和儀）』と視實等象儀を完成したが、是等は今、東京淺草の傳法院に保存されて居る。又介石は我國の金銀の海外流出を憂ひて輸入品防遏、國產品愛用の『身代限を釀す所以の圖』を出版し、或はランプ亡國論を唱へて石油を使用する爲に日本の種油や蠟燭が賣れざるを始として國產品の潰滅するもの百三十一種に及ぶ事を論じたりした明治初年の反動期にある頑固黨の一人で、當時は佐田介石と丸山作樂、及び死ぬ迄「夷人原」と外人を呼んで居た內藤耻叟の三人が頑固派の重なる人と見られて居たのである。

幕末
明治
大正

回顧八十年史

第二十三輯 目次

玻璃版

琉球國王と慶賀使一行……五七四
　琉球最後の國王尙泰、琉球國王の印、琉球の慶賀使一行、『おもろさうし』と首里の印。
追憶の名士……五七五
　明治初年の勝海舟、晩年の勝海舟、ロンドンに於ける長州藩留學生、明治十五年朝鮮事變當時の花房公使と館員、花房公使と海軍陸戰隊。
思ひ出の風物……五七六
　グラント將軍歡迎流鏑馬、奈良正倉院御開封、日本人の手になれる最初の機關車の試運轉、明治初年の宮之下。
明治初期の思ひ出……五七七
　横濱町會所、横濱燈臺局、創立當時の東京商船學校練習船。
明治末期の風俗……五七八
　自轉車乘の女學生、婦人の乘馬(一)、婦人の乘馬(二)。
幕末の時計……五七九
　香時計、萬年時計、鎗打尺時計。
幕末志士血盟狀……五八〇
　幕末志士血盟狀。
明治初年の輸入防遏宣傳……五八一
　佐田介石著『身代限を醸す所以の圖』
明治時代名士のおもかげ……五八二
　三嶋通庸、馬場辰猪、長三洲、向山黃村、尺振八、柳川春三、野村文夫、菊地容齋、田崎草雲、月岡芳年、岩井半四郎
　田中平八、佐田介石、典侍高倉壽子、權典侍千種任子、權典侍姉小路良子、中島俊子、巖本嘉志子。
維新史跡……五八三
　六角獄舍の遺跡、郭公亭、上善寺內密議の室、横井小楠遭難の遺跡。

オフセット二色版

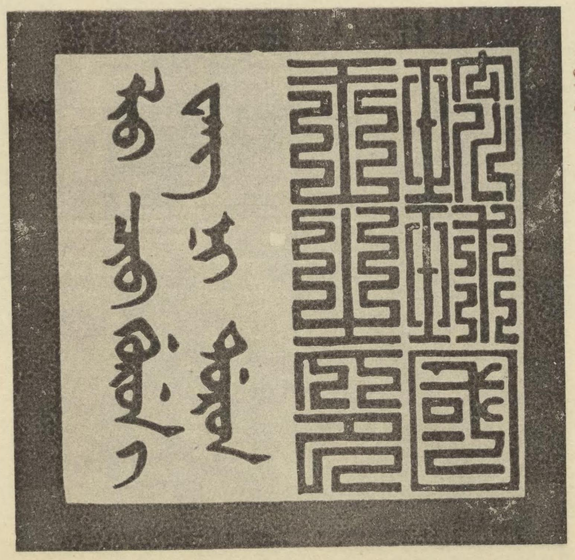
山階宮晃親王、有栖川宮幟仁親王、有栖川宮熾仁親王、北白川宮能久親王、小松宮彰仁親王御筆蹟……一
德川慶喜、德川篤敬、德川慶篤、德川慶勝、德川昭武遺筆……二
德川齊昭、島津齊彬、毛利敬親、松平春嶽遺筆……三
三條西季知、壬生基修、東久世通禧、三條實萬、近衛忠熙遺筆……四

嵯峨實愛、鍋島閑叟、島津久光、山內容堂遺筆……五
久我建通、中山忠能、九條道孝、柳原前光遺筆……六
池田慶德、前田慶寧、鷲尾隆聚、伊達宗城、毛利元德、池田茂政遺筆……七
德川齊昭・藤田東湖合作、江川坦庵、高島秋帆、佐野竹之助、有馬新七、宮部鼎藏遺筆……八
藤田小四郎、武田耕雲齋、有村雄助、有村次左衛門、大關和七郎遺筆……九
小松淸廉、玉乃世履、巖谷一六、武市半平太、橫井小楠、轟武兵衛遺筆……一〇
吉田松陰、梅田雲濱、橋本左內遺筆……一一
雲井龍雄、佐久間象山、梁川星巖遺筆……一二
中山忠光、吉村寅太郎、平野國臣、美玉三平、高橋甲太郎遺筆……一三
眞木和泉、久坂義助、伊藤甲之助、永井介堂、大橋訥庵遺筆……一四
河井繼之助、村田淸風、淸川八郎、櫻田良佐遺筆……一五
高杉晋作、坂本龍馬、前原一誠、江藤新平遺筆……一六
島義勇、川路聖謨、丸山作樂遺筆……一七
三條實美、四條隆謌遺筆……一八
大原重德、近衛篤麿、岩倉具視、姉小路公知遺筆……一九
木戶孝允、大久保利通、西鄕隆盛、伊藤博文、副島種臣遺筆……二〇
勝安房、山岡鐵太郎、僧月照、陸奧宗光、榎本武揚遺筆……二一
栗本鋤雲、小野梓、廣澤眞臣、元田永孚、重野安繹、中村敬宇遺筆……二二
森有禮、新島襄、福澤諭吉、奧村五百子遺筆……二三
稅所敦子、品川彌二郎、廣瀨武夫、成島柳北、三島通庸遺筆……二四

琉球國王と慶賀使一行

中上、琉球の慶賀使一行
明治五年、王政維新を慶賀の爲、東上した一行の寫眞である。
前列、右より。贊詔官喜屋武親雲上（日帳主取）中央、正使伊江王子尚健、左、副使尚有恒宜野灣親方朝保
後列、右、外務省通譯、左、山里親雲上（評定所主取）

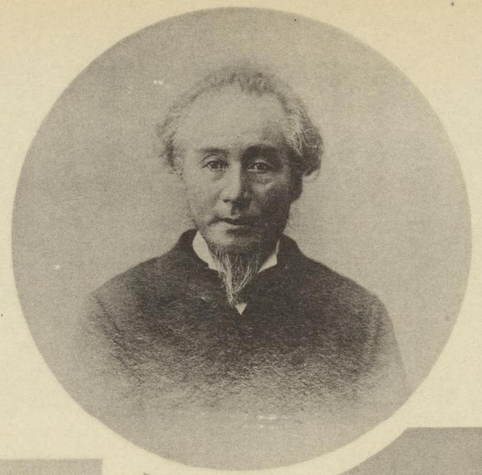
右、琉球最後の國王尚泰
尚侯爵家藏



中下、琉球國王之印
琉球國王の印であつて、右側には『琉球國王之印』とあり、左側は滿洲國字で彫つてある。支那へ送る公文書に使用したものである。

左、『おもろさうし』と首里の印
尚侯爵家藏
『おもろさうし』は琉球建國以來の歴史を記した古典で、玆に掲載のものは其中の『首里王府のおさうし』で即ち第一卷の扉である。上部に首里の印が捺してある。此印は國内に使用し辭令書家譜等に押捺する。『おもろ』とは『神歌』と云ふ事である。

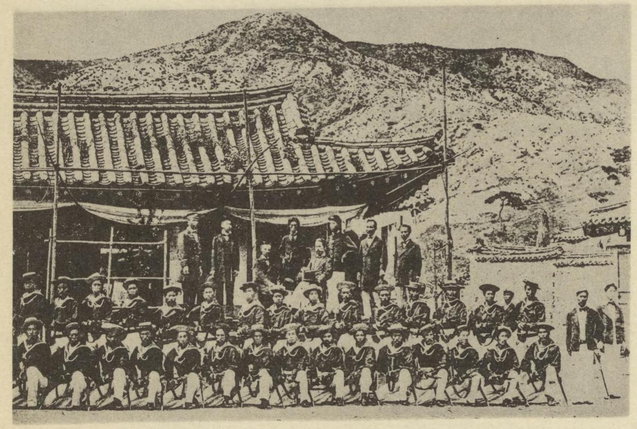
明治五年琉球國王は王政維新慶賀の爲節使を派遣す尚健が使臣として正使伊江王子尚寅、副使與那原親方朝保、評定所主取喜屋武親雲上、贊詔官尚有恒宜野灣親方朝敷、外務省通譯官山里親雲上等一行を引率して東京に到着、朝廷では慇懃を極めて之を迎へ、先づ浜離宮に於て饗宴を賜ひ、次で皇居に於て謁見の儀を行ひ、更に正使以下一行に對し位階を進めて叙位の式を擧げ、其の後數日にして一行は宿舘日比谷の濱離宮に於て歌會を催され、席上御題『久契石水』の下に『動』なき代御代の心を見よと詠じ、又『紅葉に雪』の題に『紅葉まてかの外のとまりゆ見とり盛の醉まてに』と詠じ其才學文藻を賞讃せられた。尚泰が藩王に封ぜられ、尚侯爵家に傳はつてゐるのである。



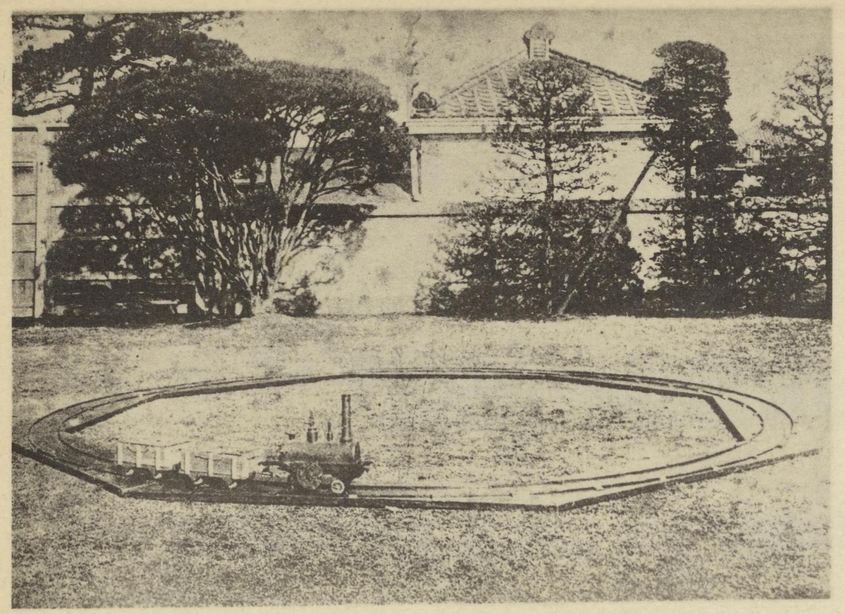
右上、晩年の勝海舟
右下、明治初年の勝海舟

片岡茂三郎氏藏

中、ロンドンに於ける長州藩留學生
文久三年長崎より外國軍艦に乘じてロンドンに留學せる長州藩留學生で元治元年（一八六四年）ロンドンにて撮影した寫眞である。
前列、右、山尾庸三、廿八歳
左、井上聞多（馨）三十歳
後列右より
遠藤謹助
井上彌吉（勝）廿四歳
伊藤俊輔（博文）廿四歳



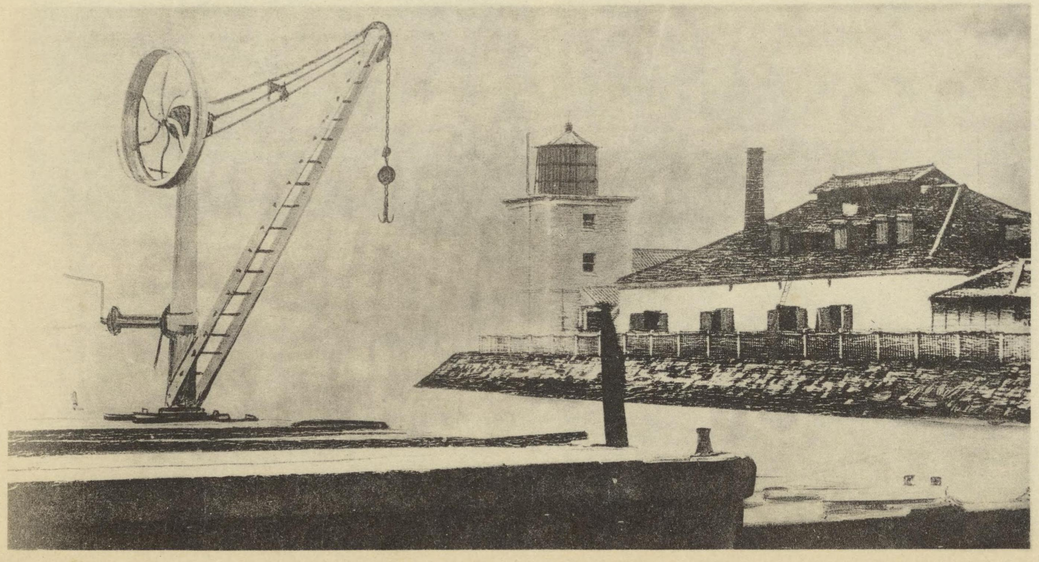
左上、明治十五年朝鮮事變當時の花房公使と館員
左下、花房公使と海軍陸戰隊



上左、グラント將軍歡迎流鏑馬
明治十二年七月來朝の米國グラント將軍歡迎の爲、上野公園に催されたる流鏑馬の實況。
下右、奈良正倉院御開封
明治初年に於ける奈良正倉院御開封當時の攝影。

上左、日本人の手になれる最初の機關車の試運轉
安政二年佐賀藩精錬方の中村奇輔、石黒寛二、田中儀右衞門の三名が製作して運轉した機關車の模型であつて、寫眞は試運轉中の有樣である。機關車の寫眞は本史に既に掲載してある。（鐵道博物館藏）
下左、明治初年の宮之下
明治六、七年頃の箱根宮之下の風景

左上、創立當時の東京商船學校練習船
明治初年築地鉄砲洲田川上に浮べた東京商船學校練習船である



右、横濱町會所
横濱市史稿纂係藏
明治七年の創建で横濱貿易商の醵金によつて建てられたもので、中央に高塔があり大時計を供へて居たので俗に時計臺と云はれて市内の名物であつた。初は町會所と稱し、二十三年横濱貿易商組合會館と改めたが、更に横濱會館と改稱し三十九年十二月に燒失してしまつた。

左下、横濱燈臺局
横濱市史稿纂係藏
徳川幕府が慶應二年五月外國との條約に基いて八ケ所の洋式燈明臺と二箇の燈船との建設を企て維新後の明治元年英國技師ブラントン及び助手三名が來朝して諸般の設計を爲し燈臺局は初めは木造であつたが明治七年三月十八日煉瓦造の燈臺局が完成し明治天皇及皇后兩陛下の臨御あり、同夜の新式回轉燈の點火を天覽あらせられた。

明治末期の風俗

右、自轉車乘の女學生
自轉車の輸入されたのは明治二十二、三年頃と云はれ、二十三年頃にはゴム輪のものが輸入されて來た。當時一臺八十五圓と云ふのであるから可成高價なものであつたが華族女學校の女學生が通學に愛用した。自轉車乘の元祖は、木内キヤウ子女史と云はれて居る。當時柴田環（今日の三浦環女史）も盛んに乘り廻し小杉天外の小說『魔風戀風』には卷頭に此流行を引入れてあるので婦人間の流行熱が益々盛になつたものである。（寫眞木内キヤウ氏藏）

中、婦人の乘馬（一）
前田曙山氏藏

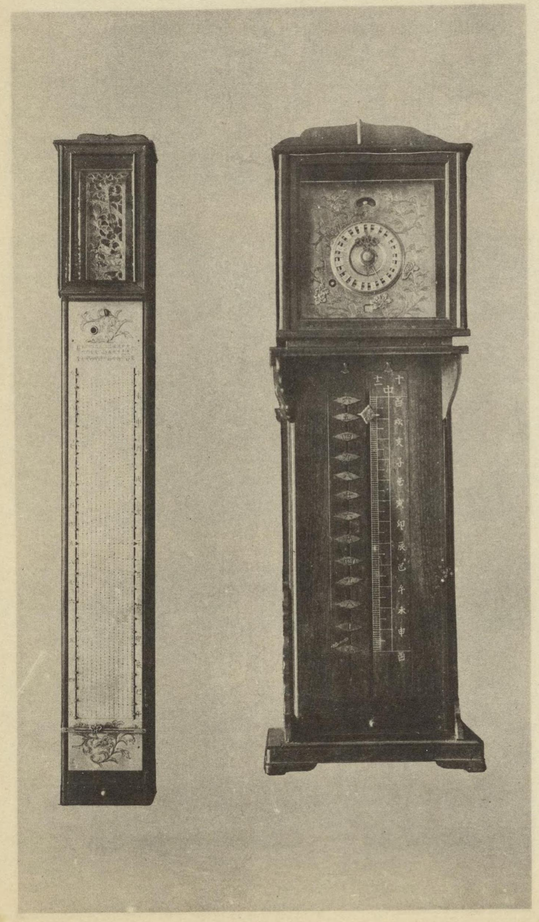
明治十年頃の新舊風俗の混淆時代には一方には斬髮、帶刀の姿もあれば又一方には婦人の乘馬も流行となつて來た。然も此流行の魁は藝妓であつたと云はれる。川上貞奴が未だ芳町に藝妓をして居つた時分に、得意の大坪流の腕前を揮つて街頭へ進出したと云ふ事で川上貞奴は舞臺でゝも眞物の馬を乘り廻して評判を取つて居たものである。藝妓間の流行がやがて女學生間の流行となり後に婦人界の流行となつたものである。寫眞の婦人は神倉文子。

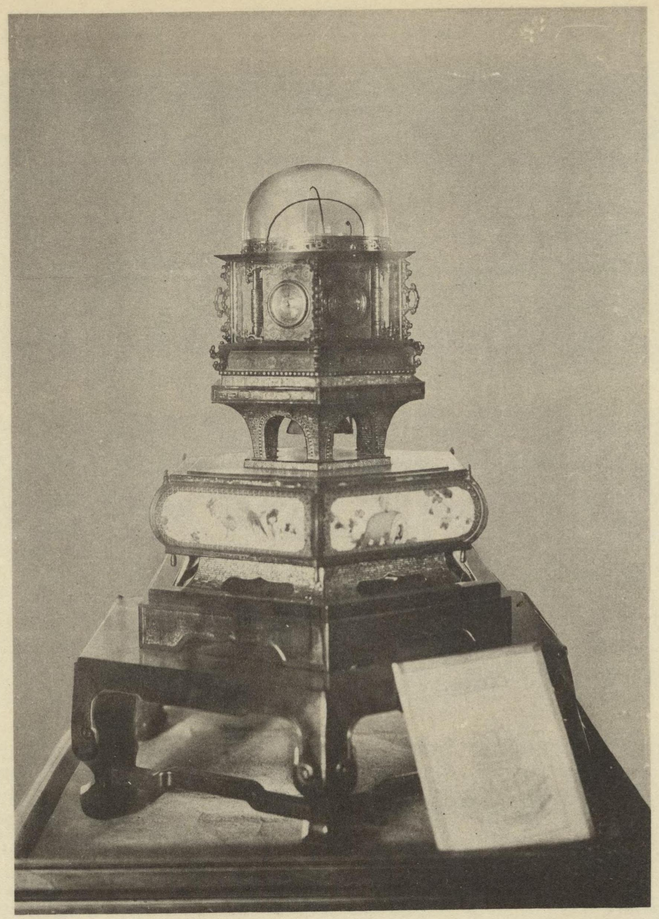
左、婦人の乘馬（二）
前田曙山氏藏

明始十年頃には本所に草刈馬術練習所があつて女學生や婦人連練が習したものである。義經袴で男乘りと云ふ乘り方のもあれば又アンドン袴の横乘りのもあり、或は廂髮、或は下げ髮あり、颯爽として都小路を乘り廻した尖端振りには流石の江戸ッ子も叱驚したものである。乘馬も今日の樣な優秀なものではなく、駄馬も同樣であつた。

幕末の時計

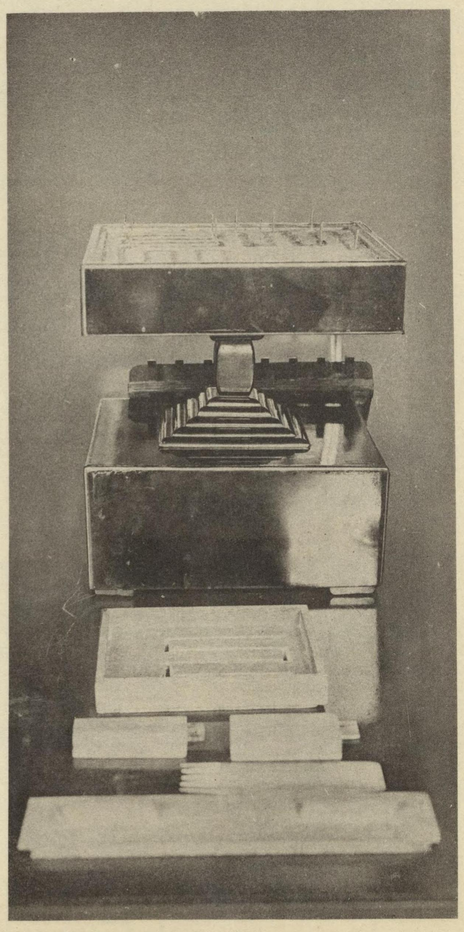
左、鑰打尺時計　高林兵衛氏藏
東京科學博文館陳列
柱時計であつて、菱形の板が下つて尺度の目盛を指示し時刻を知る樣になつて居る。





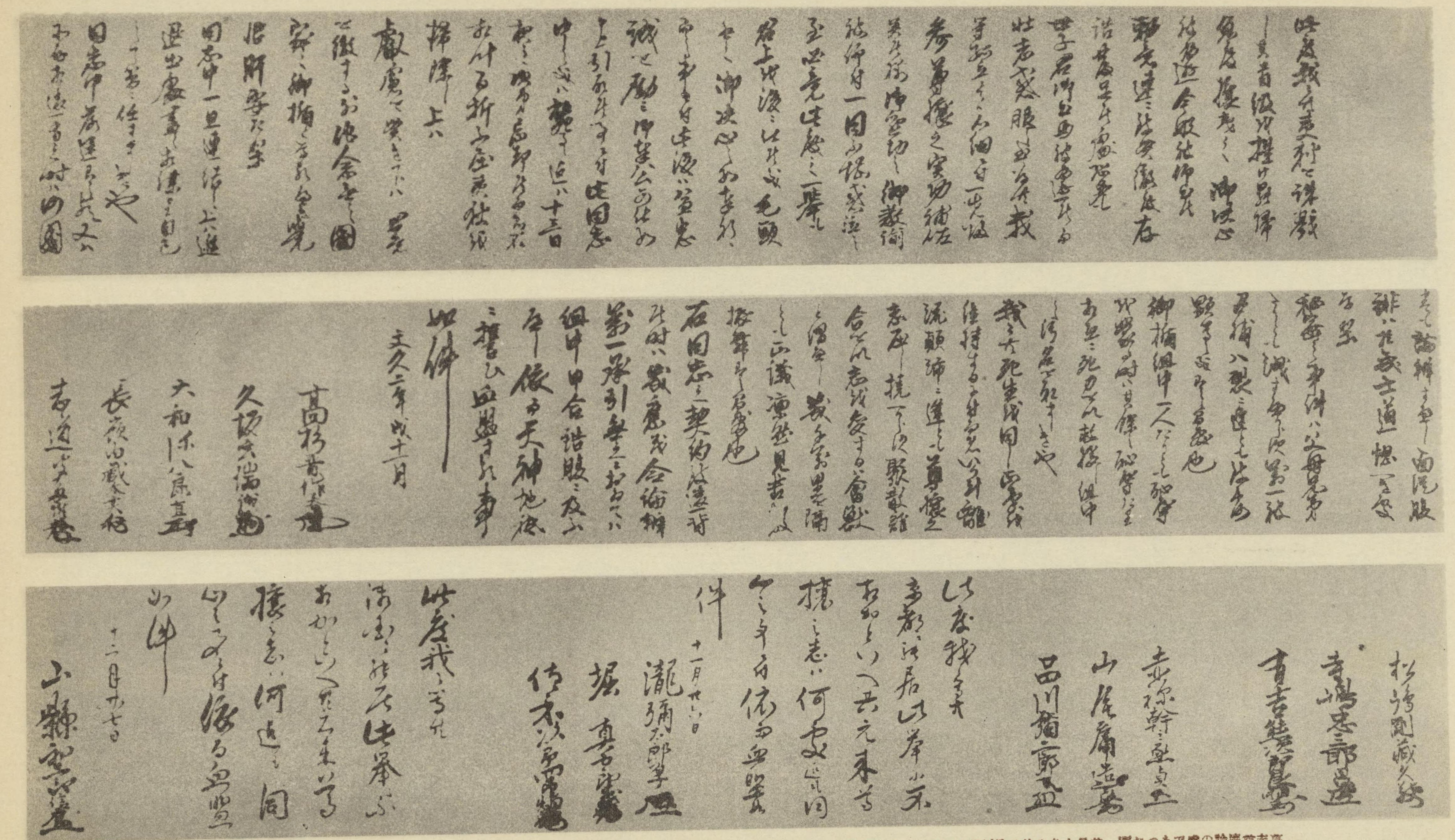
中、萬年時計　田中久重作
東京科學博物館陳列
此時計は萬年時計と云つて四百日卷の時計である。嘉永三年久留米の人田中久重の製造、高林兵衛氏の所藏で世界的名品である。

右、香時計　高林兵衛氏藏
東京科學博物館陳列
手前の方にあるのは香を量る道具で、一番上の灰の中に香の筋道を置き一端より火を點じて枠の所で時間を計るものである。



德川家康がイスパニヤ（西班牙）から時計を贈られて以來我國でも工夫を凝らして時計を作るものが現はれ精巧なものが出來たが、嘉永三年以來久留米の人、田中久重の製作したものに中々逸品があり殊に萬年時計と通稱する四百日卷の時計は西洋時間、日本時間、週日、月等を對照せしめた非常に精巧を極めたもので裝飾も亦中々の優品で今日では世界的の逸品として評判のものである、今は高林兵衛氏の所藏である。

幕末志士血盟状



幕末尊攘論の盛であつた頃、其最も急先鋒は長州藩であつた。而も同藩中には硬軟兩派があり軟論派をば俗論黨と呼び、硬論派を主戰黨と稱して互に氷炭相容れず常に軋轢して居つた、主戰黨は血盟書を作つて結束を固めて居つたが此血盟書にも長藩の中心人物なる高杉晉作を始め久坂玄瑞、山尾庸三、品川彌二郎等の名も見えて居る。『衆散離合を以て志を變ずるは禽獸と謂ふべし、讎千萬里を隔つとも正義凛然見苦敷振舞有之間敷候也』と書中に見えて居る。壯烈なる志氣正に紙上に躍如たり、今は井上侯爵家の秘藏である

明治初年の輸入防遏宣傳

佐田介石著『真代眼を驚す所以の圖』

西南役後の我國の輸入増加を憂ひ、熊本の奇僧佐田白茅（介石）が輸入防遏宣傳のため明治十三年一月刊行した木版宣傳ビラである。原物は縦一尺四寸、横一尺九寸の大判で、各種の輸入品によつて我國の金銀が海外に流出するのを憂へ、國民の注意を促したものである。

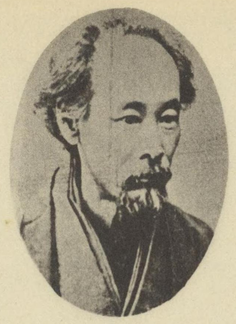
佐田介石は眞言派の僧侶であつて奇説を説へ、其他に『ランプ亡國論』や地球の平面なる事等を論じ又十四年十二月には『栽培經濟問答新誌』も刊行した。

明治時代名士のおもかげ

柳川春三
（中外新聞創始者）

向山黄村
（詩人、ナポレオン三世に謁す）

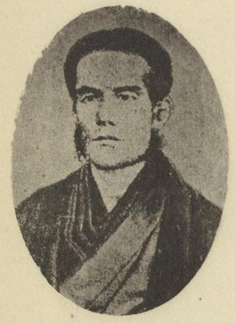
長三洲
（書家）



尺振八
（英學者）

馬場辰猪
（自由黨名士）

三島通庸
（福島縣知事、警視總監）



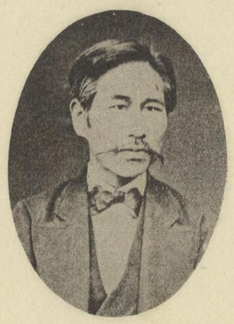
田中平八
（天下の糸平と稱す）

岩井半四郎
（名優）

月岡芳年
（畫家、大蘇と稱す）

田崎草雲
（勤王畫家）

菊地容斎
（勤王畫家）



野村文夫
（圖々珍聞創始者）

巖本嘉志子
（『小公子』の譯者として有名なり）

中島俊子
（湘煙女史、女權論者）

權典侍
姉小路良子

權典侍
千種任子

典侍
高倉藤子

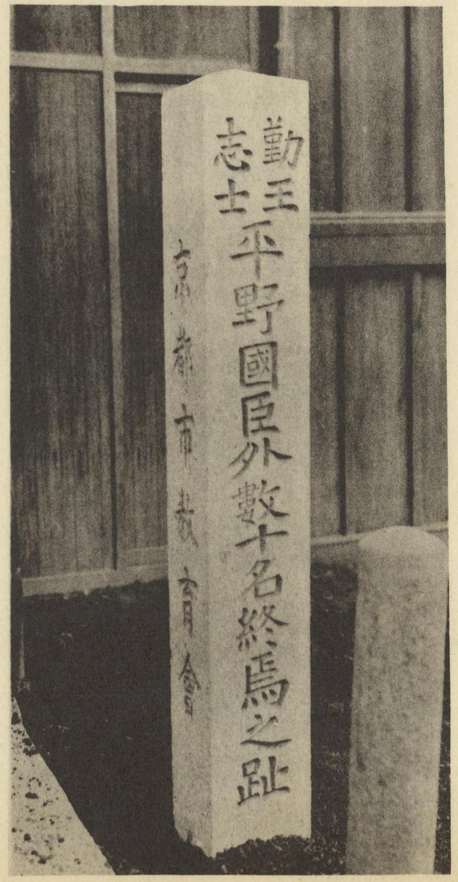
佐田介石
（佛、ラブン亡國論等により有名なり）

有、六角獄舍の遺跡
京都六角通千本東にあつて六角獄舍の遺跡である。元治元年七月十九日の甲子禁門の變に際して志士の破獄を恐れた奉行組川播磨守眞知は入牢中の志士、平野國臣、三條四公大夫河村能登守秀敎、三條公大夫丹羽出雲守正澄等三十三名を取調もなさず片ツ端より斬首した所で、今は京都敎育會の手により寫眞の如き碑が建てられて居る。

東禪寺の奥山中にあり、六疊の座敷、四疊半の茶屋、四疊の押入雜舍所があつて西鄕吉之助（隆盛）が僧月照と國事を議した遺跡である。

中下、上善寺内密議の堂
上善寺は京都市上京區鞍馬口寺町東入にある。淨土宗で越前の松平春嶽の菩提寺であつた爲に春嶽の上洛するや、此寺を宿陣として薩藩の小松帶刀、西鄕吉之助、大久保市藏等と國事を密議した室である。

左、橫井小楠遭難の遺跡
橫井小楠は熊本藩細川氏の臣である。開國論を唱へて江戸にて刺客に襲はれたが、明治元年三月徵士となり、後參與となつた明治二年正月五日退朝の途中寺町丸太町下ルの路上で刺客十二三名にピストルを以つて襲はれ小楠は輿を出で短刀を以つて戰つたが途に落命した。今日『橫井小楠殉節地』の碑が建てゝある。



山階宮晃親王

詩

賦城州栗栖野萩

茫々栗野秋風冷。千古蕭萩處處華。只恐樵童爲牧犢。無心來往自相誇。

有栖川宮織仁親王

筆蹟

實祚之隆、當與天壤無窮、

有栖川宮熾仁親王

詩

銀河沙漲三千界。梅嶺花開一萬株。

北白川宮能久親王

筆蹟

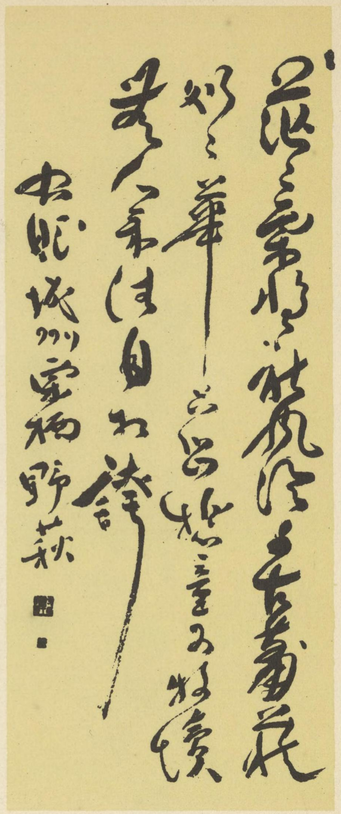
滿招損、謙受益、

小松宮彰仁親王

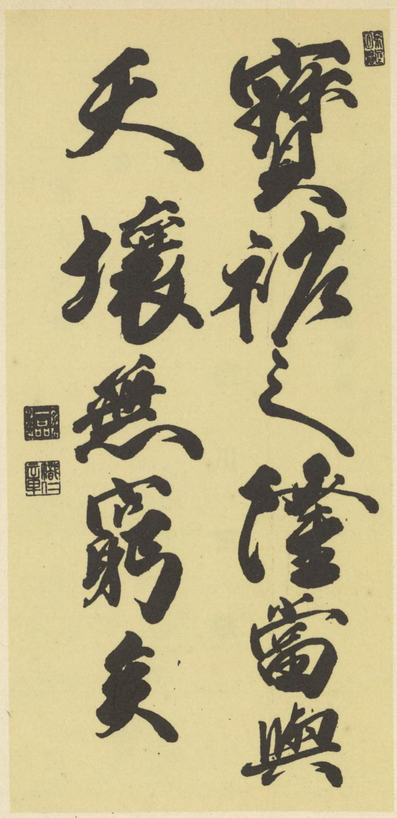
詩

水邊園月翻歌扇。風裡垂楊學舞腰。

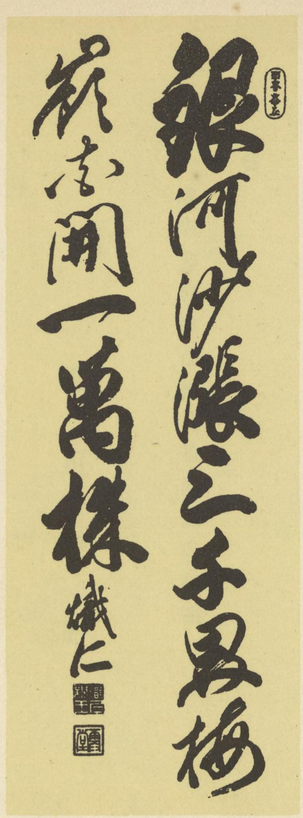
山階宮晃親王筆



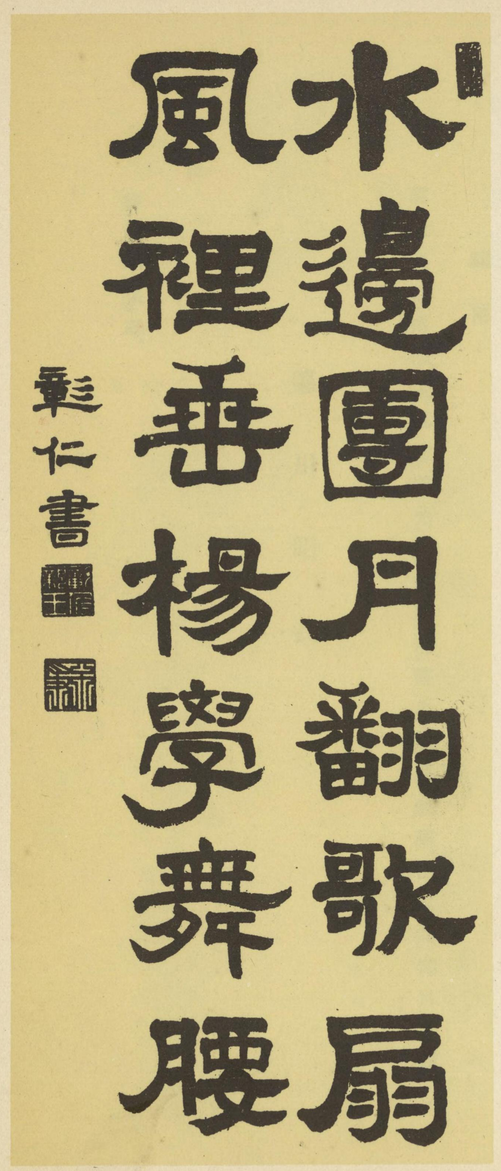
有栖川宮幟仁親王筆



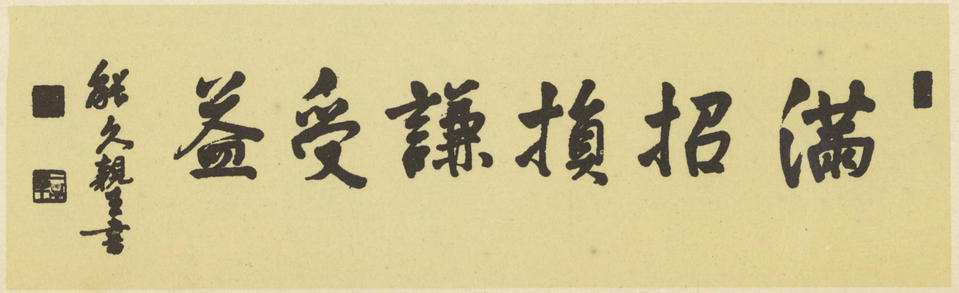
有栖川宮熾仁親王筆



小松宮彰仁親王筆



北白川宮能久親王筆



德川慶喜

書

博施於民而濟衆。

德川篤敬

書

至大至剛。

德川慶簡

書

成者非自成己而已也。所以成物也。

德川慶勝

詩

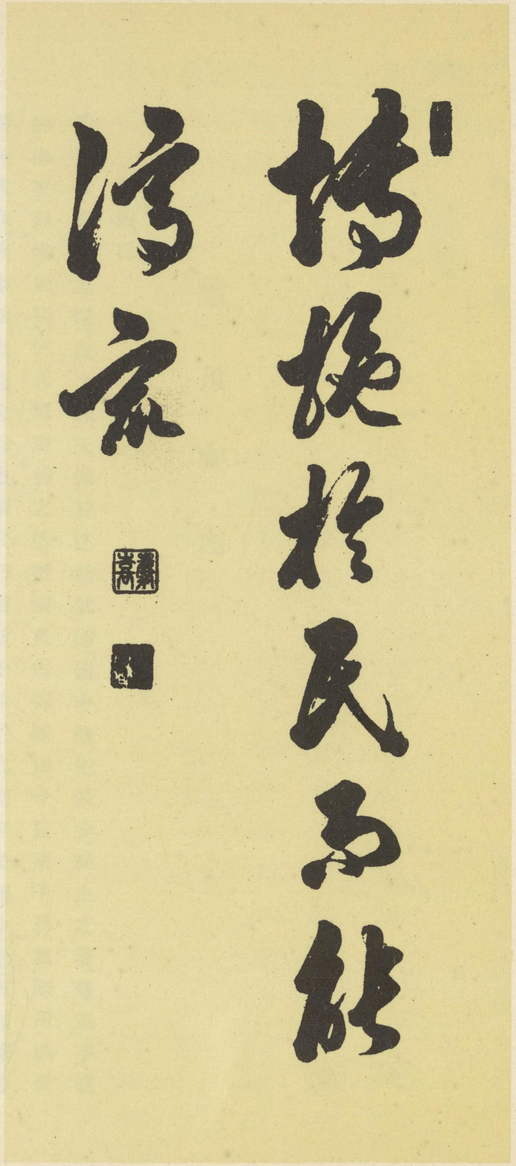
驟雨

雲山四起雨傾盆。風送電光射水軒。洗盡炎威驀然霽。清凉如掬月黄昏。

德川昭武

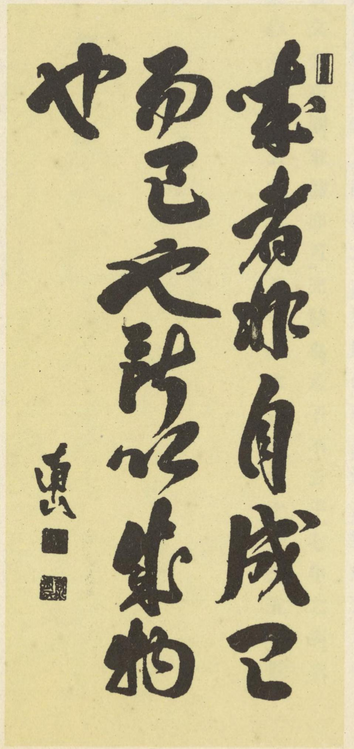
書

務實不求華。



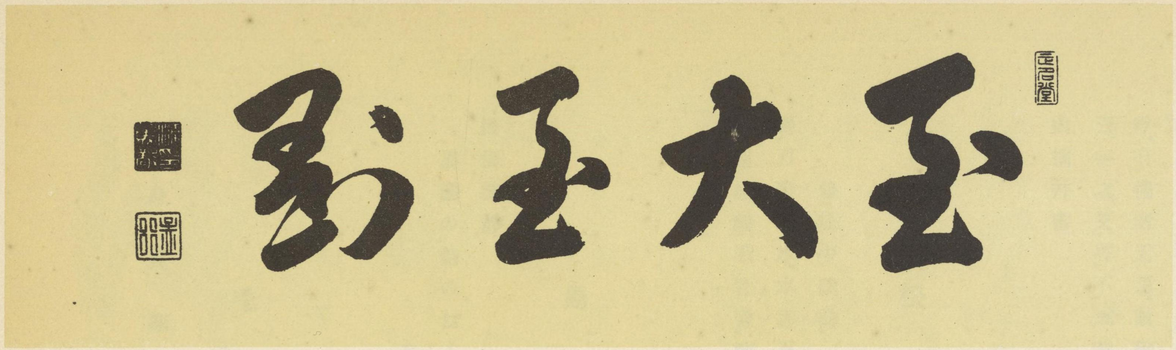
德川慶喜筆

男爵 澁澤榮一氏藏



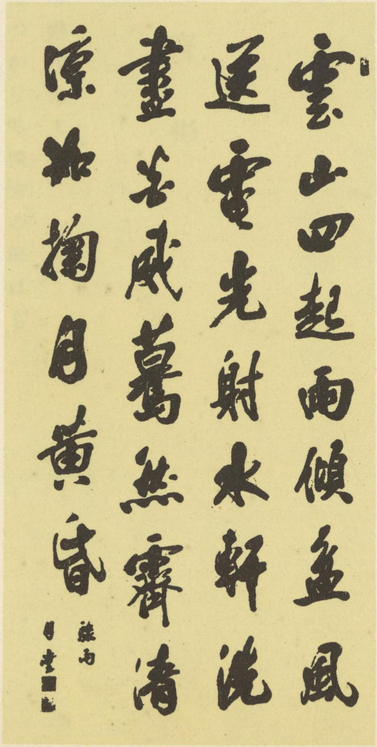
德川慶篤筆

侯爵 德川圀順氏藏



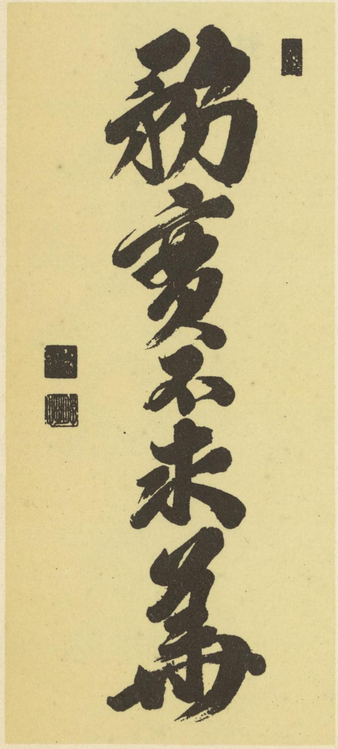
德川篤敬筆

侯爵 德川圀順氏藏



德川慶勝筆

永坂周二氏藏



德川昭武筆

侯爵 德川圀順氏藏

德川齊昭

種梅記

予自少愛梅。庭植數十株。天保癸巳始就國。國中梅樹最少。南上之後。每歲手植採梅實。以輸於國。使司園吏種之偕樂園及近郊隙地。今茲庚子再就國。所種者鬱然成林。開華結實。適會弘道新成。乃植數千株於其側。又令國中士民。每家各植數株。夫楳之爲物。華則冒雪先春。爲風騷之友。實則含酸止渴。爲軍旅之用。嗚呼。有備者无患。數歲之後。文葩布國。軍儲亦可充積也。孟子不云乎。七年之病。求三年之艾。可不戒哉。聊記以示後人云。天保十二年歲次庚子冬十月念五日景山撰并書

松平春嶽

錄杜少陵詩

磨刀嗚咽水。水赤刃傷手。欲輕腸斷聲。心緒亂已久。丈夫誓許國。憤惋復何有。功名圖麒麟。戰骨當速朽。

島津齊彬

四海波靜

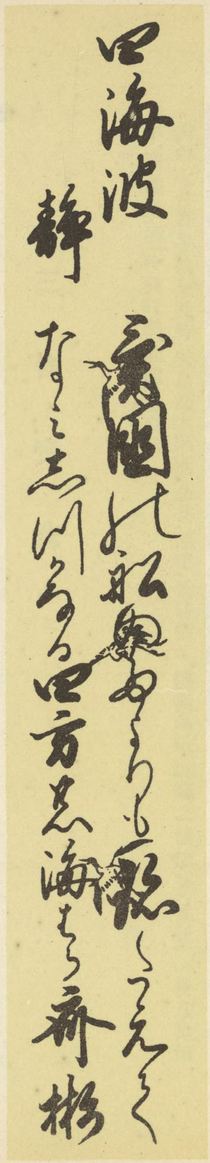
異國の船のたよりも跡たえて
なみてつかなる四方の海はら

毛利敬親

修身齊家

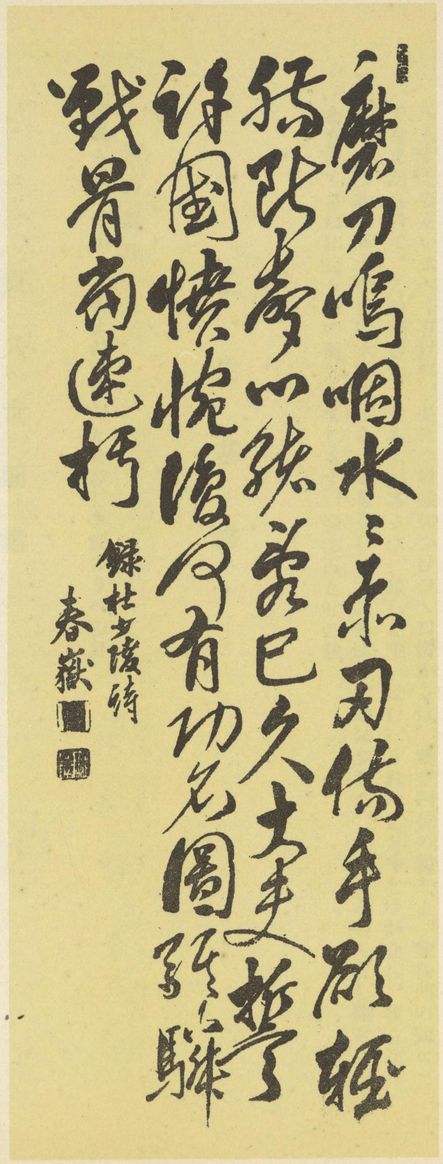
毛利敬親筆

毛利元昭氏藏



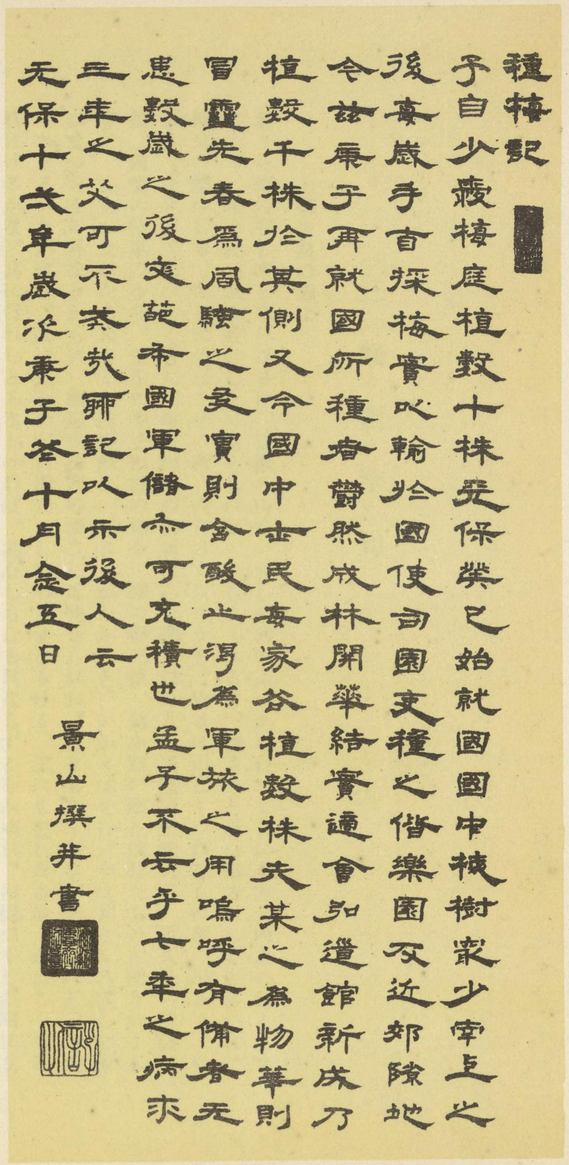
島津齊彬筆

公爵 島津忠重氏藏



松平春嶽筆

本山彦一氏藏



德川齊昭筆

伯爵 香川敬三氏藏

三條西季知

七卿良窺の圖に

ありそ海の有し事を忘れざるは、後瀬の山のいましめ共いふべからむ、こゝに土方大内史の乞るゝまに〳〵、澤の從三位の畫れしとて携らしれを、つら〳〵みるに、實さもと思ひ出るふしこそ多かれ。抑兄の繪はしも、去し文久三とせの秋、内日さす京のうち、物さはがしくつねならぬ事の出きて、いよ〳〵ます〳〵思ひをこらし、年頃御國の御爲に心を盡されたる　三條の太政大臣、東久世の侍從の長、四條の陸軍の少將、壬生のやま形縣の權令、澤の從三位、錦小路の贈正四位たちの、深き故よしありて、おもひ立れたるわたくし成振舞は、罪さりがたかれと、いかゞはせむ。今は其こゝろざしを報ひまつらんの外なきからに、績麻成長門の國さして物せられぬ。己をちなく年さへ老にたれど、いかでおとるべきかはと、共に京をのがれ出たりし時のさまなりけり、工にも畫れたる哉。かしこくも乞れにけるかな。共に行れしとちなりければ、其心しらむも只ならずこそみゆれ。白縫つくしの國にうつろひし後も、幾許の事ありしか、互に雄心をふり起しつゝ、五年の春秋を送りける程に、縣巻もかしこき仰ことかゝふりて、京に歸りのぼりける、其うれしさたとへんに山なほ高からず、うみ猶ふかゝらずとこそいふべく有けれ。是につけ彼につけつゝ口惜かるは、贈正四位の獨なり、彼長門の國にて身まかられて、この御さかりをあふがざるは、悲しとやいはむ、うれたしとやなけがまし。我らながらへてかゝる大御代の大御惠にあへるをなむ、天にあふぎ、地にふして、かしこみつゝ有し儘を、ありのすさびに短き筆の柄とりてしるす。明治五とせの秋

壬生基修

歌

水邊夏月

秋風も底にやかよふ夜ふねさすたかせ涼しき波のうへの月

東久世通禧

詩

傑閣登臨夜色涼、清風拂檻醉歌長、千年只有當頭月、空照中洲古戰場

丙申七月遊于信州長野矢島浦太郎延余其南樓款待備至、樓極高敞、眺矚之佳、罕見其比、一夜月明如午、憑欄把酒、吟興旺然、則賜之以示

三條實萬

歌

祝言

なつりごと道なほかれとすへらきのをさめます世はいやさかゆへき

近衞忠凞

歌

竹雪

降るまゝにおもれるは落る音なしてふき折きかぬ窓のくれ竹

三條西季知筆

伯爵　土方久元氏藏

壬生基修筆

宮地殿夫氏藏

東久世通禧筆

矢島浦太郎氏藏

三條實萬筆

森慶道氏藏

近衛忠熙筆

六條定光氏藏

嵯峨實愛

歌

いつまても色はかはらぬくれ竹のかけこそ君かすかた也けれ。

鍋島閑叟

詩

時平壯士氣將窮。奮起誰圖列世功。回首當年知己在。欲乘萬里海南風。
航海無因奈志窮。慨慷常擬百蠻功。何當一變耶蘇教。都作細戈千足風。
右次瑞龍藤公征南詩韵。余幼時閱輿地圖指豪斯州。歎謂人曰。此地空濶可取而有也。今看公作。心竊有感焉。故及之。

島津久光

書

侍衛之臣。不懈於內。忠志之士。忘身於外。

山內容堂

詩

遊鏡川舟中作。

小舟繫得清流處。人熱世界不知暑。看他漁父捕香魚。新獲何講細與巨。願呼同遊如耳矚。石卉滿亂人語。

蜷峨實愛筆

山階宮家御所藏

鍋島閑叟筆

侯爵　鍋島直大氏藏

島津久光筆

公爵　島津定光氏藏

山內容堂筆

長尾重名氏藏

久我建通

歌

寒月照梅花

梅もさき月もくまなき空なからあたら此夜のさむくもあるかな

九條道孝

書

琴書常自樂

中山忠能

歌

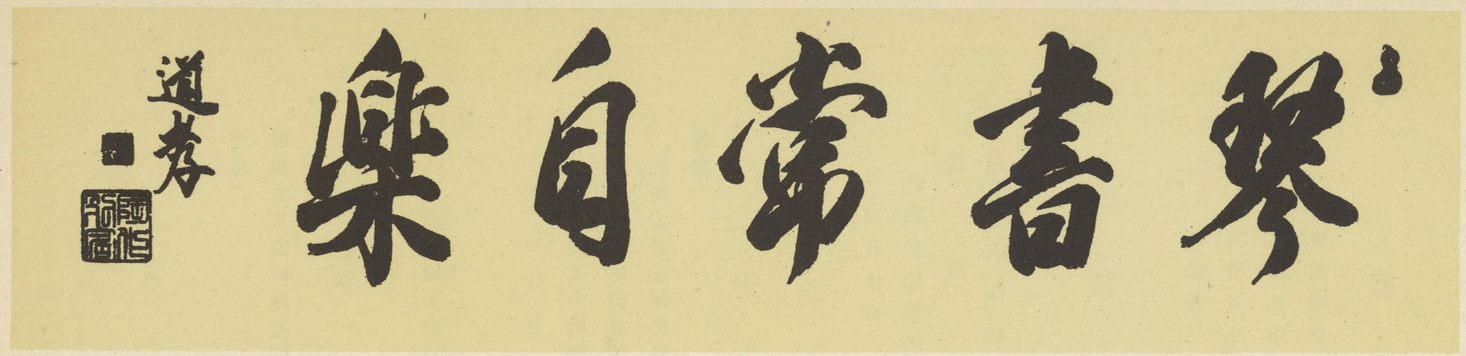
梅風

梅かかもあらたまりけりあら玉のとしのはつ風けさ吹しより

柳原前光

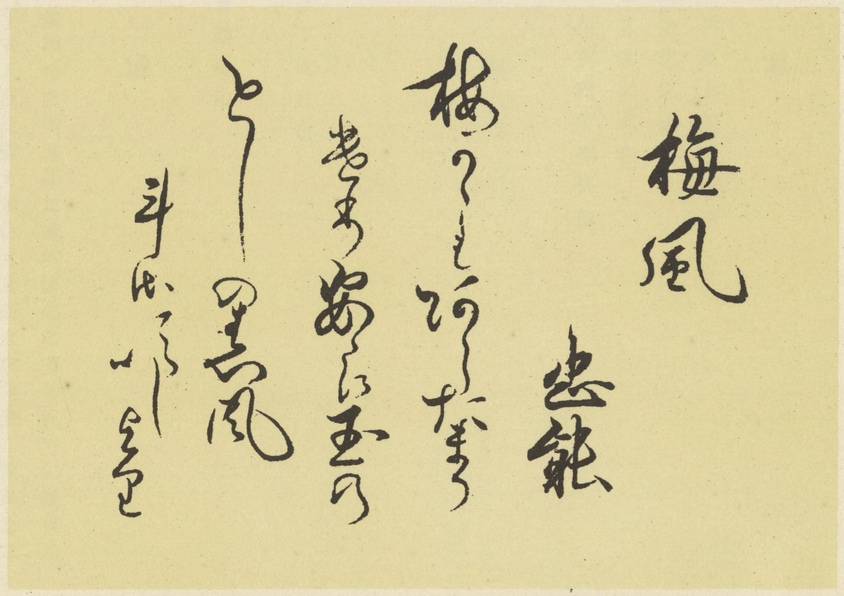
送別曲木晒正、

故園路遙雲水連。綠蔭深處送歸船。瑞京風月鄰羅雪。回首追隨度二年。



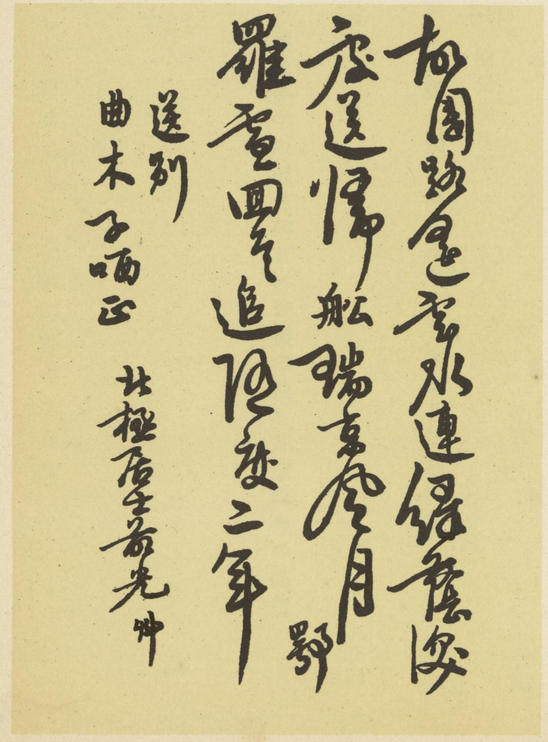
九條道孝筆

藤井貼敬氏藏



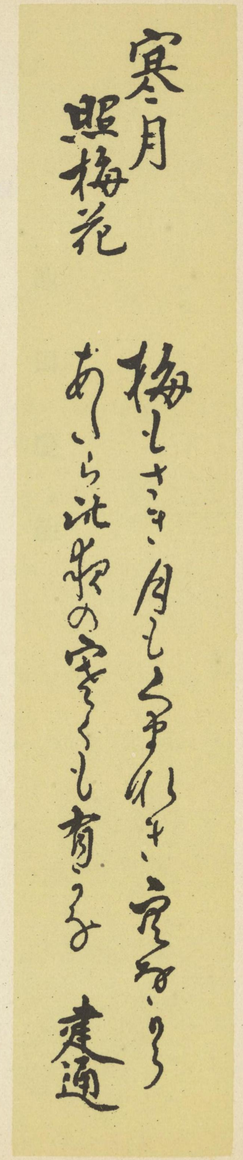
中山忠能筆

青木恒三郎氏藏



柳原前光筆

曲木秀夫氏藏



久我建通筆

伊澤雅樂氏藏

池田慶徳

祝

たみやすく國ゆたかなる君か代に出あふ身こそうれしかりける

前田慶寧

忠

安政四年、歳次丁巳、長夏上浣、倣二顔法一

事二其君一者、不レ擇レ事而安レ之、忠之盛也、

孝

事二其親一者、不レ擇レ地而安レ之、孝之至也、

加越能三州太守、三位黄門菅原齊泰、

鷲尾隆聚

書簡

陪観人心得書

番組

右御送附候間、御落手被レ下度候也、

三月七日

華族會館御中

伊達宗城

書簡

適體之候、愈壯榮愈賀候、隙ば參而希置候、天涯比隣帖、揮毫之事、毎度申乞候得共、御多用中不レ被レ得二閑時一無二止候一、乍レ去天涯比隣も飛散に及而は、折角急せ候記念之帖故遺憾不レ少、就而は一旦御返却申受度尚期二面盡一候得共、此旨申述度、如斯候也、

十月廿日

宗城

重野 厳谷 兩先生几下

尚成齋先生へ云、末廣より願入候遺稿も、如二本文一應御返却希候也、

毛利元徳

朝廷今日之御衰運、痛哭に不レ堪也、多年の徴志、何日に貫候半哉と、苦慮此事に候、汝可レ思之、

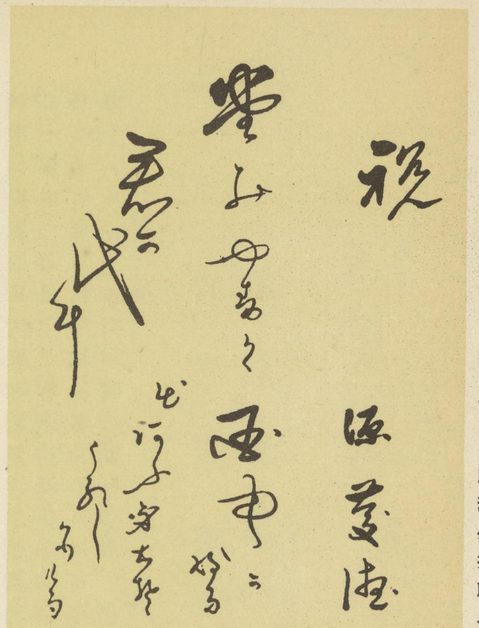
池田茂政

寄松祝

ちよふとも色はかはらしいつまても君か齢は若のうら松

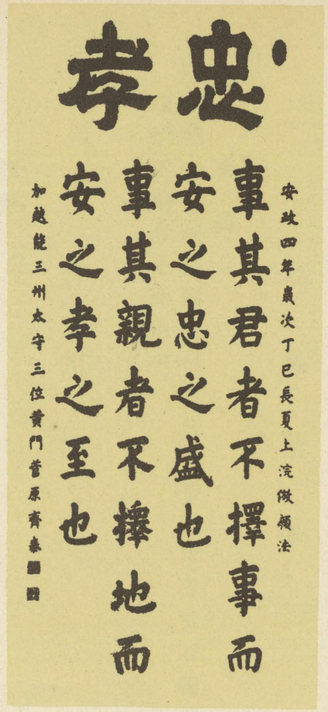
池田慶德筆

伯爵　廣澤金次郎氏藏

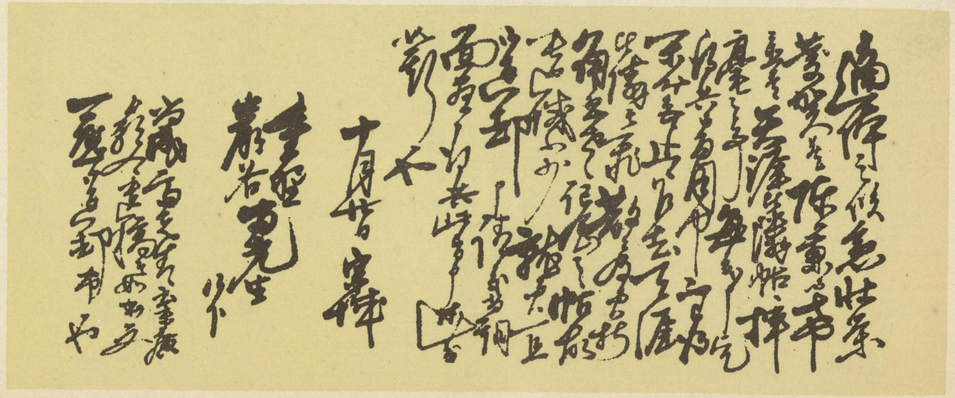


前田慶寧筆

侯爵　前田利爲氏藏

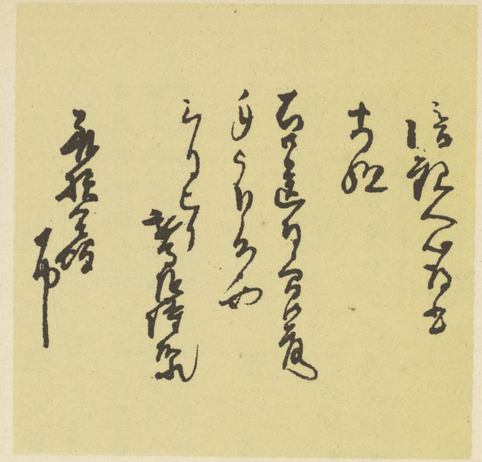


伊達宗城筆



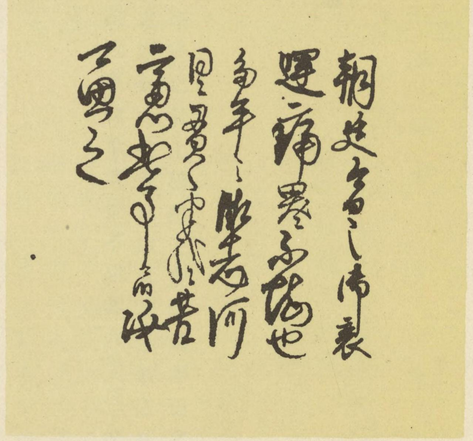
重野紹一郎氏藏

池田茂政筆

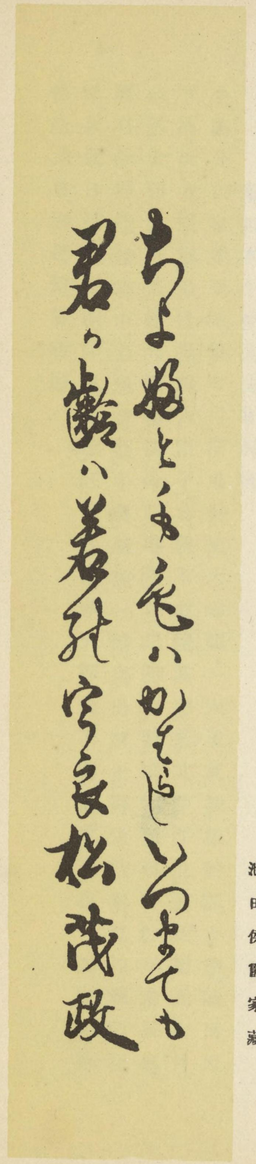


青木恒三郎氏藏

鷲尾隆聚筆



池田侯爵家藏



毛利元德筆

公爵　毛利元昭氏藏

德川齊昭
藤田東湖

瓢兮歌

瓢兮々々吾愛汝。汝嘗熟知顏子賢。陋巷追隨不改樂。盍將美祿延天年。天壽有命非汝力。聲名猶附曠尾傳。瓢兮々々吾愛汝。汝又嘗受豊公憐。金裝燦爛從軍日。一勝加一百且千。千瓢所向無勁敵。叱咤忽握四海權。瓢兮々々吾愛汝。悠々時運幾變遷。亞聖至樂誰復識。太閤雄圖何忽焉。不用獨醒吟澤畔。只合長醉伴謫仙。瓢兮々々吾愛汝。汝能愛酒不愧天。消息盈虛與時行。有酒危坐無酒顚。汝危坐時吾未醉。汝欲顚時吾欲眠。一醉一眠吾事足。世上窮通何處邊。

高島秋帆

失題

萬綠擁孤峽。春歸花白妍。日斜苔壁冷。雲重石橋偏。一水清無暑。數峰青可憐。蠻煙飛不到。合是此山中。

江川坦庵

書事

君恩難報淚潛々。自知不敏愧生顏。何逐片舟五湖月。悠然獨覓一身閑。

佐野竹之助

題しらす

思ひきや今のうき身は敷島の
大和心の露の魁

有馬新七

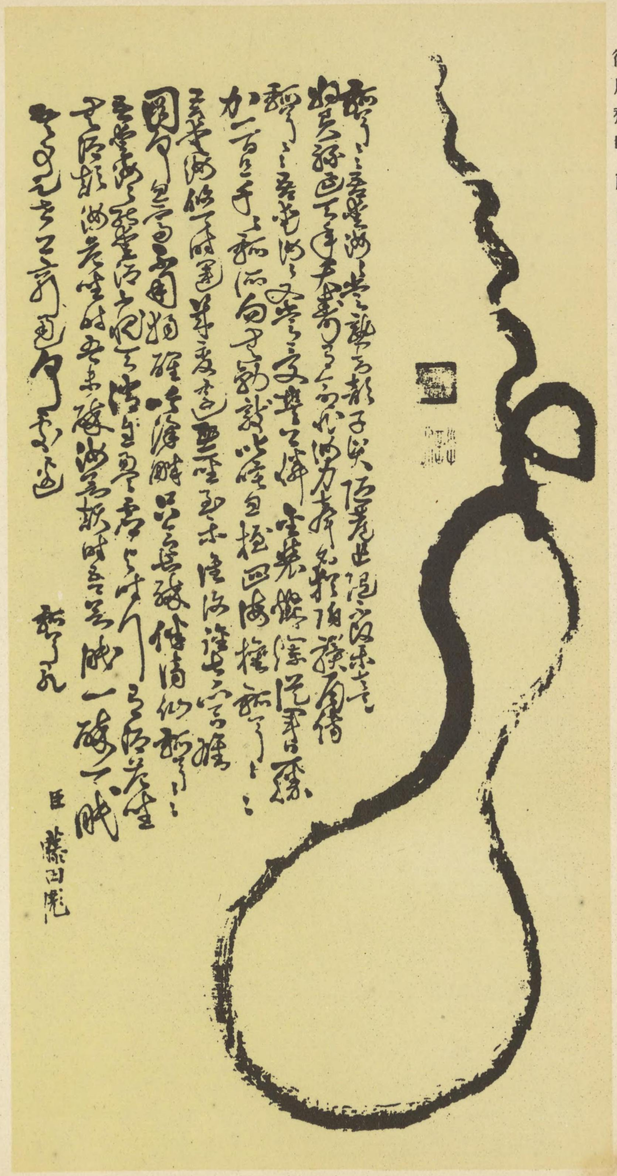
右高山正之送其祖母幷伯母之手跡而予所獲之於土浦。藩士長島氏者正之雖不巧書其遺墨之僅存在人必敬重珍藏之而如此書尤足以見其孝敬之誠在兢不敢敬重乎夫古人之手跡所以見重於天下後世者豈不以其人乎(以下略)

宮部鼎藏

書拓本小楠公決命詞後

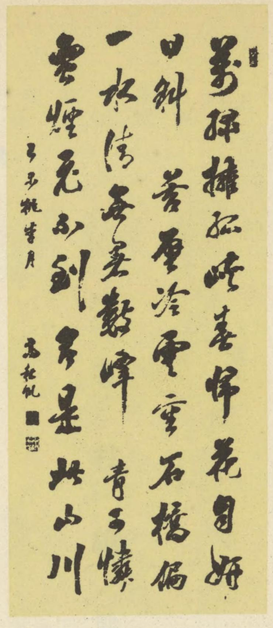
小楠公之忠孝至誠。貫日月。泣鬼神。使天地間一大正氣。扶植於冥々中。貽出天下萬世者。固無論已矣。爲人臣子者。兢不敢體其志。敬其身。乎故安政紀元七月。余游大和。出吉埜。觀其鏃書決命詞。遂摺寫以歸。將製扁額。而事務紛冗。未果也。頃有故屏居無聊中。追想昔遊。手製扁額一面。揭出壁上。實愛敬奉。且以解悶。吁嗟。余近日憂慮百端。神氣不能旺然。至忠孝大節。矢不背公之志也。

安政丙辰仲秋八日、宮部增實敬題

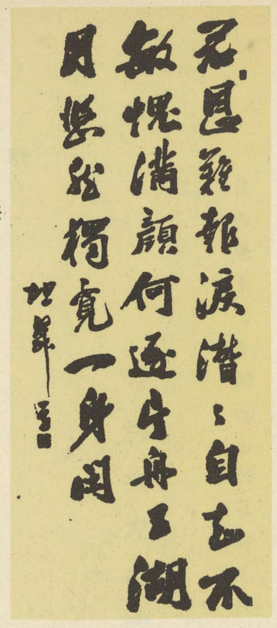


德川齊昭　藤田東湖合作

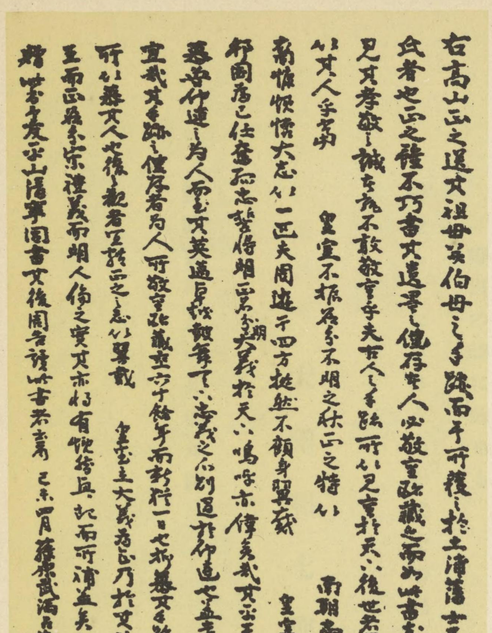
伯爵　香川敬三氏藏



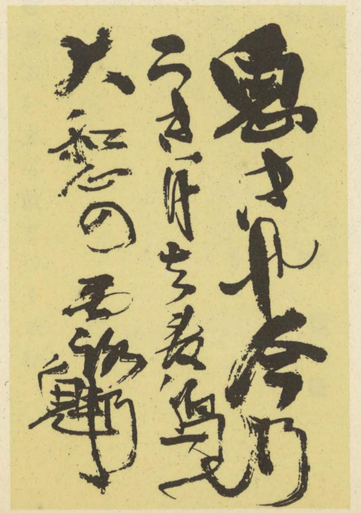
高島秋帆筆　寺内伯爵家藏



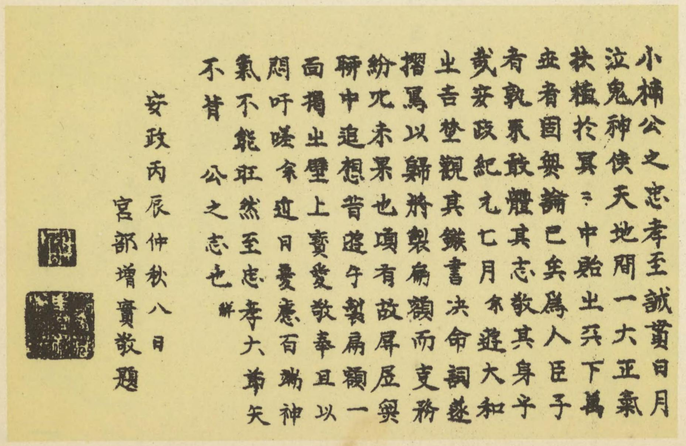
江川坦庵筆　江川英武氏藏



有馬新七筆　樺山伯爵家藏



佐野竹之助筆　大關恒太郎氏藏



宮部鼎藏筆　宮部家藏

藤田小四郎

小四郎筆豫讓圖

武田耕雲齋

勇敢強有力者天下無事則用之於禮義天下有事則用之戰勝

耕雲書

有村雄助

歌

日の光りてる御代もかなおく山の紅葉もいまは散てつくさむ

有村次左衛門

歌

櫻田の時に詠める

岩金もくたけさらめや武士の國のためにと思ひ切る大刀

大關和七郎

當其貫日月生死亦足講

大關增美

武田丸　武田耕雲斎氏蔵　筆

藤田小四郎　菊池晋二氏蔵（右）　筆

有村雄助　筆

伯爵　香川敬三氏蔵

有村次左衛門　筆

有村國太郎氏蔵

大關和七郎　筆

高階幸造氏蔵

武市半平太

自畫自讃

横井小楠

塵俗萬縁付水流一種蔬拂草不知冦閑來總隨老農事一種難忘七道州

巖谷一六

書簡

辱貢价殊に御國石決明之賜千萬奉感謝候猶拝顔御禮可申上候得共不取敢御請迄如此候御所勞折角御自重専一奉祈候也草々頓首

第一月廿日

澁澤先生

侍側

巖谷修

奉復

小松清廉

書

松陰鳴鶴　庚午春書於浪華寓居　觀瀾小松清廉

玉乃世履

書簡

貴翰拝見仕候先日受取申候御起草書寫取濟次第返上可仕候旨拝承仕候寫相濟次第差上可申候將又原告人江達之儀は右清寫出來候上相運ひ候心候ニ御座候間兩三日中ニ思考仕候其節は御報告可仕候彼是貴酬迄如此御座候也拝具

十一月九日

玉乃世履

ロベルトジョンヒートン殿

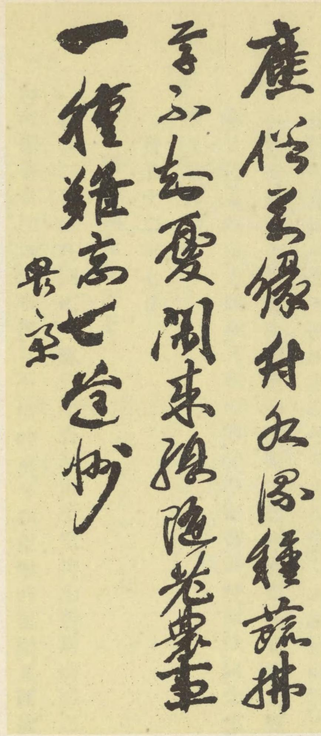
拝復

轟武兵衛

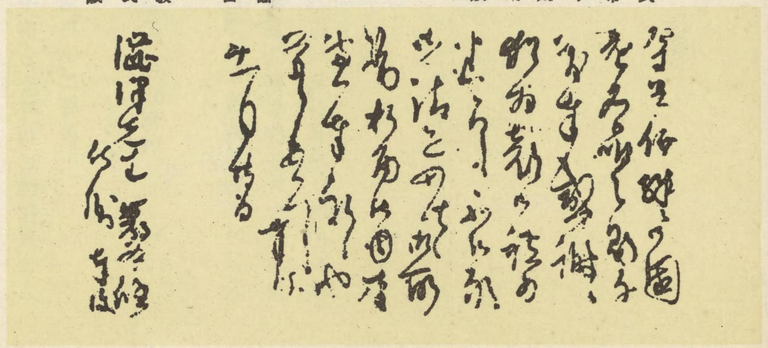
宮部增實傳の一節

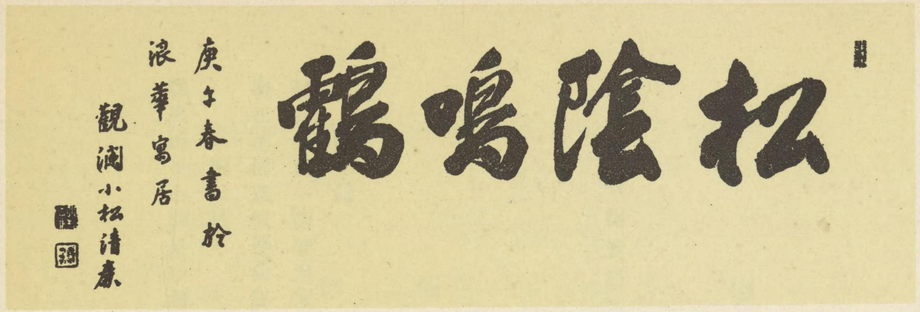
途渉芳野登金剛山搜南帝楠氏之舊趾遂遊江戸見山鹿氏之孫素水翁素水時著練兵實備先生與長州吉田寅次郎爲之序跋有鳥山新三郎者儒爲業沈勇有膽略寅次郎與南部江畑五郎寓新三郎之家（以下略）

武市半平太筆
武市半平太氏藏

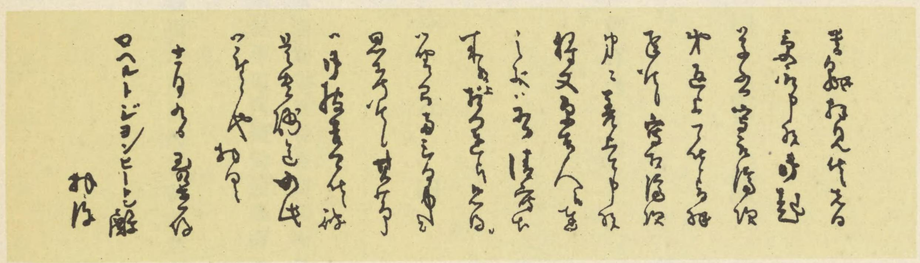


横井小楠筆
徳富一敬氏藏



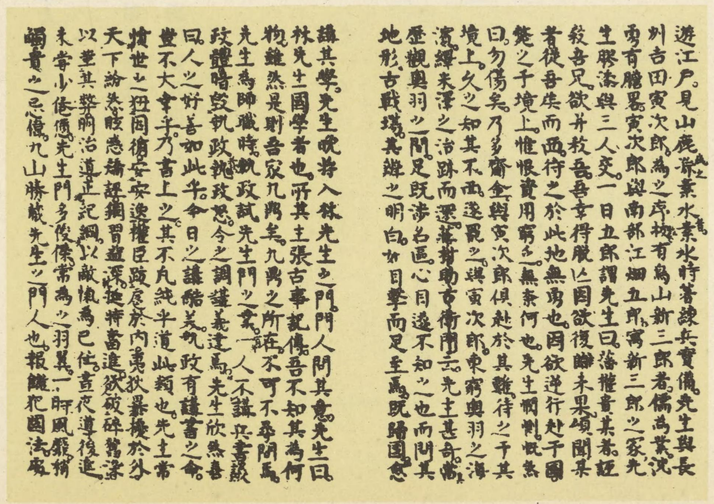


小松清廉筆
木場貞長氏藏



玉乃世履筆
水谷乙次郎氏藏

巖谷一六筆
男爵 澁澤榮一氏藏



轟武兵衛筆
守田愿氏藏

吉田松陰

寄森田節齋書

前夜之誨。言々語々徹胸衝心。然僕犬馬戀主之心區區無已。是以不能從高誨也。僕志已決矣。不復謁於先生也。且今朝造梅田源二郎。細聽京師事情。因憶謁南陽公。拜堤卿。非僕之急也。但當日夜星行致力闕東耳。明朝將發。作鄉書甚夥。雖欲謁先生亦無暇也。僕死且不避。亦何恐先生之怒罵乎。

癸丑十二年七日

節齋森先生座下

吉田矩方再拜

拙詩二篇錄在別幅。僕飄然而去。河山千里。再逢難期。鄙誠之所注。寄在二首焉。

山河襟帶自然城。東來無日不憶神京。今朝盥嗽拜鳳闕。鳳闕寂寞今非古。空有山河無變更。野人悲泣不能行。聞說今皇聖明德。敬天憐民發至誠。鷄鳴乃起親齋戒。祈掃妖夷致太平。從來英皇不世出。悠悠失機今公卿。人生如萍無定在。何日重拜天日明。

梅口雲濱

心大則百物皆通心小則百物皆病

雲濱

橋本左內

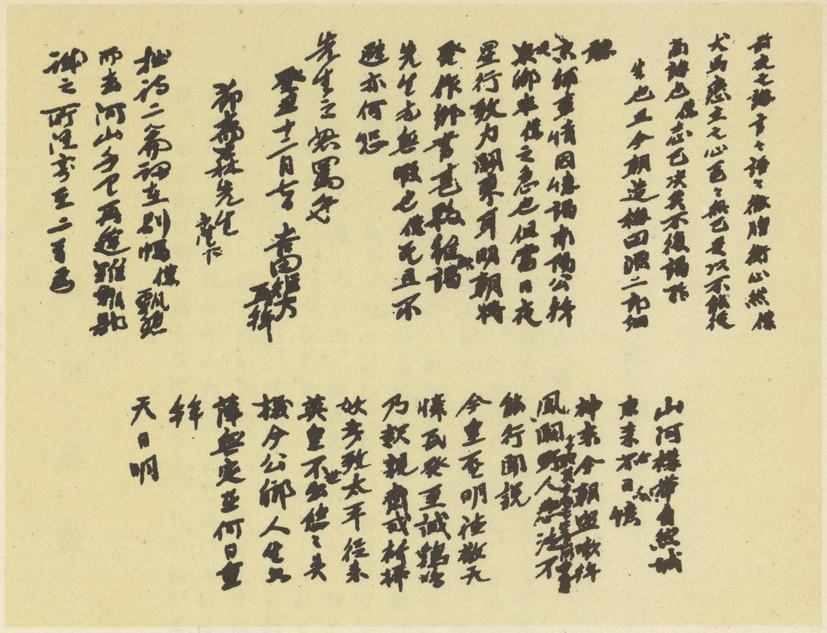
題圖

兩箇魚籃一釣絲。坐來秋水澹雙眉。欲投香餌沈吟久。默俟滄開風起時。

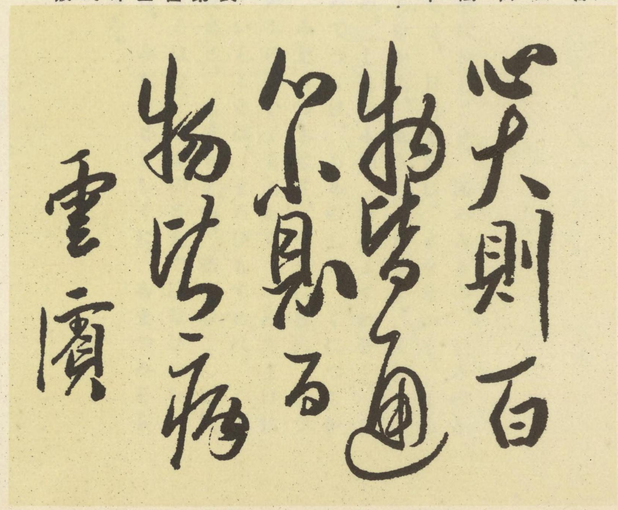
家在黃楊落照邊。前臨流水後桑田。休疑鶴髮塵清絕。山雨溪風五十年。

高輪竹杖。

漁火遙々小似星。暗潮作響嚙沙汀。白蝦紫秋光老。買醉人多在水亭。



吉田松陰筆　賀集直三郎氏藏



梅田雲濱筆　山田倉太郎氏藏

題圖

兩箇奠籃一釣絲坐來杖水澹雙眉歎
投香餌沈吟久點俟萍閑風起時
家在黃楊落照邊前臨流水坂桑田休
疑鶴髮塵清絕山雨淡風五十年

高輪竹枝

渙火遙遙小似星暗潮作響蠻沙汀白
蝦紫蠏杖光老買醉人多在水亭

秋日寓居雜題

霜葉聲乾秋已衰客中懷抱枕頻欹夜
來窓外啼蛩雨茲到五更殘夢時

橋本左內筆　加藤斌氏藏

佐久間象山

おもひをのふる歌

日のもとの、やまとのくには、かけまくも、あやにかしこき、閑みろきの、かみのみよゝ梨、たかしらす、あまつひつきを、あめつちと、日月と裳に、とをなかく、よろつちあきに、すめろきの、しきますくにと、たちむかふ、忍みしかともを、はきゝよめ、むけたひらきて、あを雲の、たなひくきはみ、しらくもの、むかふすかきり、くにはらは、うまたてつらね、うなはらは、和ねみてつゝけ、あめのしたに、くにつちからを、もち月の、たゝはしてむと、おほけなく、みをもおもはす、つきに日に、心つくせしを、萬かつひの、かみのしわさか、ゆくみちの、いくらもあらて、みちまけにつますきしつゝ、つみをさへ、おひてしあれと、いしこそは、まろひもすめれ、くさこそは、なひきもすれ、すめろきの、みかどのためと、ますらをの、布りおこしてし、まこゝろは、いのちのかきり、いしのとえやはまろはむ、くさのとえやはなひかむ、あめつちの、おほみかみたち、しなぬのおほくに、みたまときしくに、あまつみそらゆ、あまかけ刋、見そなはしてよ、わかしつこゝろ。

梁川星巖

和歌

をりにふれて

千早振神の御國の磯あらし
　吹とも〻しらてよするえみし良

阿那とふと濁れる世とはなりぬれと
　みなもと清き加茂の川水

海山も民もろともに安かれと
　祈まことをあまてらすらん

太刀はきてゆみやとる身も愧ぬらん
　我か大君のたけき御こゝろ

七十自吊

老そます人もおのれも草木まで
　ひまゆく駒にひかれ〳〵て

老はてゝ終る命はそおしからじ
　世にいさをしのなきかなしき

春の野にて詠る

春の野に賤つかむ菜のわかみとり
　おもひや出ん去年の面かけ

雲井龍雄

詩

飄零贏得飽江山。又泊東寧萬里灣。報國壯心丹一掬。寄身寒水碧雙鬟。功名蠻雨瘴煙外。踪跡馬聲帆影間。猶有秋風蓬底夢。依稀夕向故園還。沙界灣夜泊

佐久間象山筆

伯爵　吉井幸正氏蔵

梁川星巌筆

永井遠曹氏蔵

雲井龍雄筆

中山忠光

爽秋良と友に東夷茂たをさねば
　い嘉て御國のけかれすゝかん

吉村寅太郎

重三前一夜回翠樓訣別書懷。

櫻樹未ゝ開楊眼嬌。決心呼ゝ友酒終宵。一家一國足ゝ焉患。宜ゝ使ゝ本朝爲ゝ本朝ゝ

平野國臣

天津風ふくや錦の旗の手に
　なひかぬ草はあらしとそおもふ

美玉三平

みよしのゝ山よりやまにふりつゝく
　ゆきにかけろふたつはるをまて

高橋甲太郎

常盤女携ゝ三兒ゝ奔圖

尋ゝ撲笠擡ゝ寒刺ゝ肌。左提右携僅逃ゝ危。誰圖佗日成ゝ龍虎ゝ慶殺ゝ平軍ゝ此是兒。

中山忠光筆

時田光介氏蔵

吉村寅太郎筆

川田豊太郎氏蔵

平野國臣筆

吉井　達氏蔵

美國三平筆

吉井　達氏蔵

高橋甲太郎筆

吉井　達氏蔵

眞木和泉

天の戸の明行まゝにすか〳〵し
はるや神代に立かへるらむ

永井介堂

文

書累卵帖之後

居治而思亂、可以保其國、膏粱不忘藜藿、可以克其家、安危無端倪、禍福如糾繩、人能知累卵之危、則可全磐石之安、語曰、其其亡亡繫于包桑。

久坂義助

七卿落都落歌謠

文久三年八月十八日、おもふことありて、この舞曲をうたひつゝ都をいて立侍る。

世は刈薦と亂つゝ、紅さす日もいとくらく、蟬の小河に霧たちて、隔の雲となりにけり、うらいたましや靈きはる、大裡に朝暮殿ゐせし、實美朝臣季とも卿、壬生澤四條東久世、其外錦小路との、今うき草のさためなき、たひにしあれば、駒さへもすゝみかねては嘶つゝ、ふりしく雨の絶間なく、なみたにそてのぬれはてゝ、これよりうみやまあさちかはら、つゆしもわきてあしかちる、難波のうらにたくしほの、からきうき世はものかはと、ゆかむとすればひかしやま、みねのあきかせ身にしみて、あさなゆふなにきゝなれし、妙法院の鐘の音も、なんと今宵はあはれなる、いつしかくらき雲霧をはらひつくして、もゝしきのみやこの月をしめて給ふらむ、

大橋納庵

思誠堂日記

廿六日雨　高杉晉作

朝。須伊使來。遣闕邪五部元寇三部○午後制本屋來。致闕邪二十部

廿七日雨　大橋燾次

朝。家嚴之元濱町。○午後無事○夜。高久氏來。

廿八日陰　原要玄

朝。先生之于高久氏。○雨森三藏來。津輕藩人○午後燾次君使于元濱坊。○夜。要玄保之昆氏。○表紙屋致表神二枚

廿九日晴　高杉晉作

朝。雨森三藏來謁○晉作之于上邸。○午後。要玄之昆氏。○燾次之萬忠。○泉吉使來遣小言五部○杉浦君使來○荒井金次郎來謁

三十日陰　大橋燾次

朝。栗原啓太郎來謁○午後高橋氏使來○家君講中庸。常盤文吉森冬藏清水磯太郎君來聽○夜無事

伊藤甲之助

春雨の早く降ける頃水上山に在て世の事を思ひつけて

春雨の音もわひしき山の端に、侍ほととほき花のころかな

眞木和泉筆

永井介堂筆

于業立遣氏藏

菅沼政典氏藏

大橋訥庵筆

大橋義太郎氏藏

久坂義助筆

久坂秀次郎氏藏

伊藤甲之助筆

伊藤修氏藏

河井繼之助

書簡

損毛達し委細梛野より被廻呉、掛る大變有之候に、何ニ一御爲に成る事も不出來は畢竟平生才德之乏數と天命之あるところ、無致方事ながら、殿樣は誠に御氣之毒に奉存候。扨又此度之水變は不及申、其外平生之事始、近親衆吉凶に至る迄、必御兩親樣之御苦勞に相成候は、誠に子之體には不幸にも可相當、御隱居も被遊候物を、掛る次第、實以恐入候得共、今暫御免被成下、不才之私、兎ても何ニ出來る程之事も無之候得共、少は人間がま敷罷成拜顏仕度、其而已祈念仕居候。

尊書を拜見仕候ても、獨居靜に考候ても、此儀は實に念頭にたいず、何卒他日歸岡之節、只今徹し候心地を不忘樣に仕度物に御座候。是等の變を聞ながら、遊歷等は不似合に候得共、思ても無益あきらめ候次第、不忠とや云ほん、不孝とや云はん、唯々他日己之誠心を以て、只今御間を缺くを、萬分の一にても報じ、罪をあがなへ度と奉存候。何につけても、己之不才不學未熟には、末々不賴敷、殘念に御座候。家を出てより何一つ上達も不仕御はり合も無之事、申譯も無之候得共、致方も無之、せめて心だけでも直し度と願儀に御座候。山田先生え差足事を不致に、唐歟と思はるさらさの小手今日貰候。先生始一家深切、且先生は、私には至而藥之樣に被存難有事に御座候。又々書始終々々いくじもなく、如此に相成候。御慰にも相成間敷候得共、御覽可被成下候。謹言

同夜認

惣而之書狀御咄は、御取捨可被成下候。申上に不及事なぞも、爲念に申上候。

此は繼之助が、江戸の山田方谷の塾に在りて、鄕里長岡なる父に寄せたるものなり。

村田清風

青年のむかし吉原の驛にて不二山を見てよめる

來て見ればきくより低し不盡の峰

釋迦も孔子もかくやあるらん

清川八郎

題しらす

ふきおろせ不二の高ねの大御風

よもの海路のちりを攘はむ

櫻田良佐

送義擧倡始清川君

孤劍漂然征衣新。海山萬里極遊巡。莫道當今無管樂。攘夷策應賴此人。

癸亥春櫻田迪六十七

河井繼之助筆

子爵　牧野忠篤氏藏

村田清風筆

高島義茶氏藏

清川八郎筆櫻

齋藤治兵衛氏藏

櫻田良佐筆

齋藤治兵衛氏藏

高杉晋作

蜀魂

きれて吳れろとやわらかに、眞綿て首のこわ意見八千
八聲の蜀魂。血を吐くよりもなほつらい

出雲町居候郎

坂本龍馬

かの小野小町が名歌よみても、よくひてりの順のよき時は、うけあひ、雨のふり不申。あれは
北の山かくもりても、左右を內々よくしりてよみたりし也。
につただゝつねの太刀をさめて、しほの引しも、しほ時をしりての事なり。
天下に事をなすものは、ねぶともよく〳〵はれずては、はりへはうみをつけもふさす候
おやぺどのは、早子ができたなとゝ申人あり。いかゝ。私しがいゝよるというておやり。か
しく。

六月廿八日

龍馬

おとめさまへ

此手かみ、人にはけして〳〵見せられんそよ、かしく。

前原一誠

書簡

御米銀遣拂之儀に付而は、御伺之義間近く、御法則被仰出も有之候處、不得止勢相見候に付、莫大之御費とは
奉存候得共、米を以企救郡中御救助被仰付候段、從山々御沙汰有之候段に付、私見切を以、不取敢於出先
取斗仕候。此段深奉恐入候。且又將來萬一御國中御法度之敗れとも相成候而者、殊更不相濟大罪奉恐入候、依
之身柄差控待罪罷在候間、被成御沙汰可被下候。已上。

卯十一月

前原彦太郎

江藤新平

手簡

弾啓時下倍御清穆之筈奉拜賀候。然者近來者別而御疎情打過候付、今朝ハ御尋仕候處、最早
御參朝後ニ相成、就而ハ今夕ハ池ノ端小樓ニ而御面會申上度奉待居候付、御間隙モ候ハヽ、
御退公より御來臨奉願候。一二ノ花モ取寄候手配仕置候間、未夕人目ヲ欣スルト否ト者難
期候得共、艶然滿枝ト人ノ噂ニハ御座候。兎角拜姿縷々可申述、先者早々不宣。

第十二月廿日

江藤新平

土方盟臺

高杉晋作筆（右）
山根正次氏蔵

坂本龍馬筆（上）
田岡正枝氏蔵

前原一誠筆（左）
青木恒三郎氏蔵

江藤新平筆（右）
伯爵土方久元氏蔵

島義勇

詩

偶書三首

守官久不出城門暇日逍遙後樂園。在々觀來此中物。一花一草亦皇恩。

我原西海一狂人。誤擧顯官列大臣。當日富貴過素願。每逢特遇想雙親。

一榮一辱焉足憐。不怪後進代執。權都是邯鄲枕上夢。讀熟范睢蔡澤傳。

川路聖謨

書簡

官船箱舘丸、御直產物積入、御地爲差登候ニ付、寸楮拜啓仕候。殘炎之候、先以被爲勝、倍御勇健被爲涉、抃賀無量ニ奉存候。次ニ僕儀も不相替碌々瓦全乍恐御休憐可被下候。然者坂兵會所も、追々御厚情ニ而折合候趣、不堪感銘奉存候。尙此末御庇蔭之程、伏而奉希候。併本年者昆布生者不宜候ニ付、荷物不足、其上外舶商人殊之外懇望仕候故、價も格外ニ沸騰仕候故、定而其御地江廻リ方相減、嘸々難澁可申出哉と遙察仕候へ共、勢不得已候。鯡者相應之漁事有之候故、昨年トちがひ、肥類は多分海運可相成候間、農人喋々之說者、相消候事哉ニ相考申候、

一追々諸蠻入津、貿易も御取開相成候處、種々混雜仕、殊更貨幣屢命令相改、別而諸引合差支不尠、殆ど當惑を極申候。いまだ何事も折合不申、日々痛心罷在候。嗚呼いつの時歟、旭之旗章萬國ニ輝候樣可相成歟と、夫相祈申候。何も俄ニ御船出帆申出候間、不取敢時令奉伺候迄如此ニ御座候。拜敬頓首。

七月十六日　　三郎太郎花押

山城守樣

猶以時下折角御自重被爲在候樣奉拜祈候。

兼而相伺候九谷義、いまた相成不申、此ほと又々樣子承り候得共、又々相生ニ而被用居機屋重寶故、他國不致候樣、喰留居候趣ニ及承申候。乍去當人は是非下り度と存候樣子ニ相見候趣ニ及承申候。

一此鹽數子風味如何哉難斗候得とも、便船ニ任せ、御一笑までに奉呈上候。呵々。御取捨可被成下候。敬拜首。

丸山作樂

第一　御祖父樣　御祖母樣　又　御母樣　大切　致　皆樣

ダイイチ、オヂーサン、オバーアサン、マタ、オツカサン、ヲモ、タイセツニ、イタシ、ミナサンノ、カ

可愛　餘　物欲　何　彼

アイガル、アマリニ、スネタリ、アマヘタリ、モノヲホシガツテ、ナニヲ、オクレ、カヲ、オクレ、ナド

致　御世話　燒　樣　致度　坊　年　行　丸

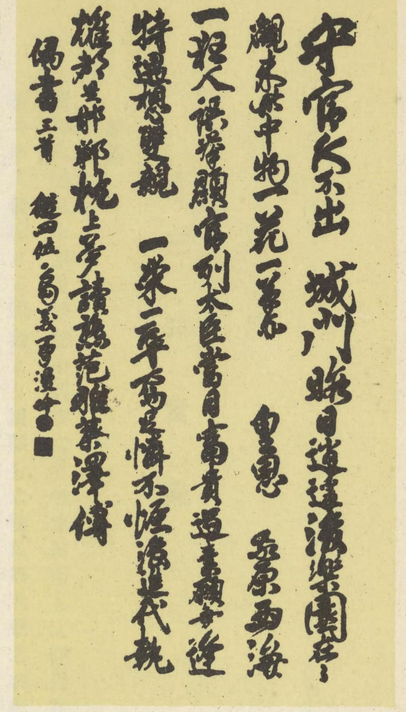
ト、ネダリゴト、イタシ、オセワヲ、ヤカセヌ、ヤウニ、イタシタク、ボウモ、トシハ、ユカネド、マル

山　作樂　一人娘　世　通　子供　振　大　成

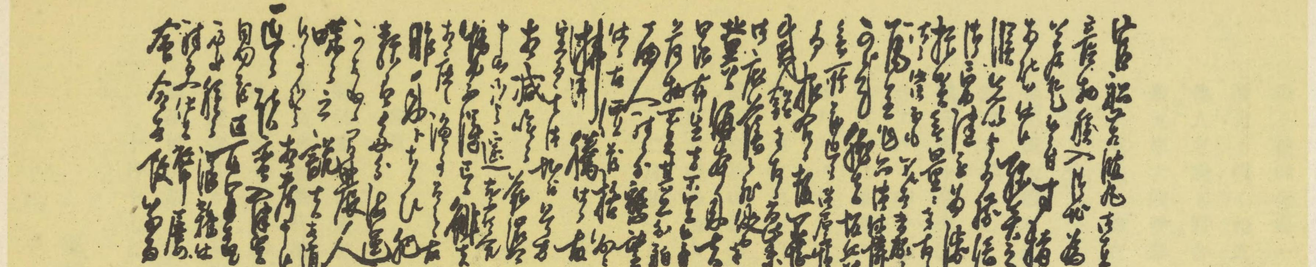
ヤマノ、サクラガ、ヒトリムスメ、ナレバ、ヨノヒトトホリノ、コドモノフリニテ、オホキク、ナリテハ

恥　譯

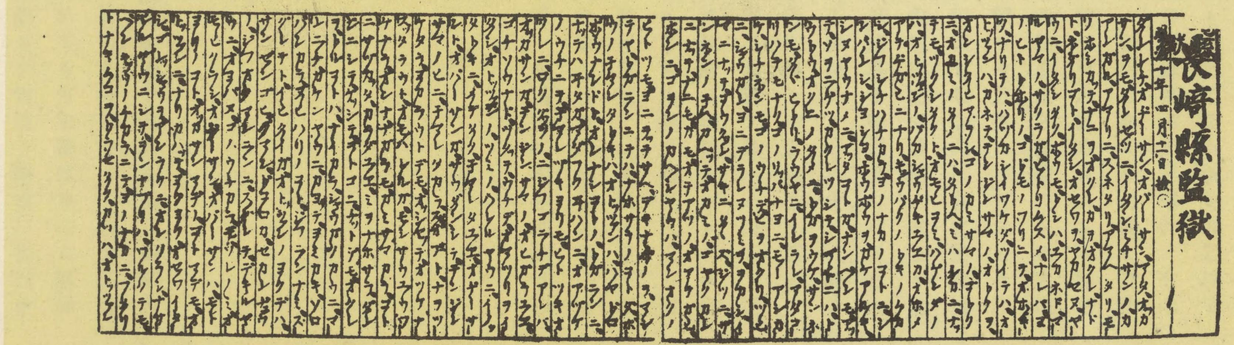
ハヅカシイワケダ、（以下略）此は明治十年、作樂が長崎縣監獄に在りて、我が女に與へたる手書なり



島義勇筆（右）　大野勇太郎氏蔵



丸山作楽筆（左）　丸山正彦氏蔵



川路聖謨筆（上）　東京帝國大學蔵

三條實美

書簡

要用以略札申陳候、於禁中別席にて相談候而も宜候得共、嫌疑も有之候間、大概禿筆を以て、密々申入候。昨日も同勤より談話有之候、民部大藏之義、誠に今日之急務至要之事件ニ有之候。昨夜來も情相考候處、小生見込は別に無之候。大隈氏を參議ニ登用、民部大藏之義も、當分掛り被仰付候ハヾ政府と民部之情實も相通じ、有力之人材、廟堂に有之候時者、自ら政府之權力も強く相成、偏重之憂無之旁兩方之御爲にも可相成候。尤此義小生之獨論にも無之。追他人之說も符合致候間、如此相成候はゞ、稍弊害を除き、物議を鎭ムル之道に可有之と々存候。元來大隈伊藤兩士之義は、頗有材有識、又有力難得之英物、大に賴もしき人に有之候處、惜哉才英敏に餘有之候て、人を籠絡し、權謀術數に近く、溫和之氣象、包容之度量無之處より、自然誹ヲ來し、今日之物議も有之候事に付、決而他に可疑事も無、可惡事も無之、實に可愛之人也。然處大隈を參議に用ル事、副島にも稍異論に似たる氣あり、小生疑ラクハ小生が大隈ヲ參議ニ擧ることニ副島ニは、若は大隈ニ疑念有て、當官を免じ、參議に轉スル之意也と思ハン歟。此處小生未論破スルコト如何と思惟致候也。足下いかゞ、小生之大隈ヲ擧ルハ、決して疑ヲ政府ニ擧げ、民大之權力ヲ政府ニ收攬スルニアリ、且は天下之怨濱ヲ民部ニ獨不歸して、善惡共ニ政府ニ擔當スルニアリ。此義岩副廣三氏も同意ナラバ、大久保ニ在テ異論も不可有歟。小生愚按、此策ヲ捨テ他ニ良策ナシ。不圖も足下之論、小生之見ニ符合ス、仍而聊鄙見ヲ以て足下ニ告、猶考慮之上、合論ニ可至周旋有之候はば幸甚也。猶後刻面上可申陳候得共、參朝之上、他人ヲ避、別坐之內談ハ、頗醜態に有候間、態と以書簡大概愚論申入置候也。不具。

二月廿三日

實美

佐々木參議殿

至密

四條隆謌

書簡

彌御安康珍重存候。抑近比誠ニ御苦勞ノ義申願兼候得共、先願試候。來十九日小番三番詰宿等爲隆謌番代御參之義相成申間敷、無據用事出來、令番代度存候。若し御差支も不被爲在候はゞ、何卒御同心御參給候はゞ、彌々畏入存候。尤御返番ハ何時にても可相勤候條、必々無御遠慮御答ニ御示可給候。右參上可相願本意ニ候得共、却而御面倒と存候間、乍略儀以書狀申願試候。仍早々如此候也。

十月十七日

隆謌

東坊城太夫殿

三條實美筆

侯爵佐々木行忠氏藏

四條隆謌筆　宮地巖夫氏藏

大原重德

書

本來無一物

集議長官益壯源重德應需書

岩倉具視

書簡

過日來每々御書狀忝存候、昨日松岡及示談候所、何分同藩之事、左院中云々之次第も有之候間、副議長え申聞呉候樣との事ニ候。尤副議長より示談候はゞ、松岡ニモ必心配可致との事に候、然るに伊地知出仕、來月三日四日比ナラデハ六ヶ敷旨、同人申居候。左候へば、松下發途之時日ニ可至ニ付、近頃殘心存候。小生には民情之事、深く注意有之候事故、內務省可然存候得共ども、大久保留守中、少々都合惡敷ニ付、貴卿土方、中村邊御內談ニ而、正院中文學上ニ關し候所え、御登用如何と存候。松岡にも或は右邊と申居候。尤無御異存候はゞ、小生より土方え可申聞候得ども、何分餘日無之今日は休日旁前條申入候、條御勘辨可被下候。

江藤も終に高知縣え遁去之趣、如何御考に哉、小生には板垣には、毛頭懸念無之候得ども、其以下の中、必死トナリ保護致し候者なしとも難申カ、亦畑郡人に萬一被計候事もなくやト苦慮候。昨日伊達宗儀卿咄しに、過日細川スミノ助ト名乘、七名計之從者ニ而、宇和島へ來り、士族煽動の由、其人体富永ユウリン、長脫人之旨、正に申越トノ事ニ候。彼是落合如何ト存候、御見込ニヨリテハ、速ニ御手廻し無之而は不相成と存候。御舊縣之事ニ付、貴所は勿論河原塚にも、百方盡力致、決而卒然ノ事は有之間敷と存候得共、佐賀變動事件、江東一人捕縛さへ相成候へば、首尾ヲ取り候譯ニ付、決而小事に無之十分御注意ニ而、木戶氏えにても御斗り可給か、此段一筆申入候。草々以上。

四月一日　　具視

佐々木殿

近衛篤麿

書簡

炎暑之候ニ向候處、益御健勝奉賀候。却說弊家之老女として、維新前勤王之爲盡力致候村岡之ために、其遺族六條定光目下猶當家ニ勤續致居候諸名家之詩歌ヲ蒐集致し居候。就而ハ尊君にも相願度趣にて小生ニ其紹介ヲ依賴致候間、此段申試候、御承諾被下候得者、當人之喜不過之と存候。謹言。

六月廿六日　　近衛篤麿

丸山作樂殿

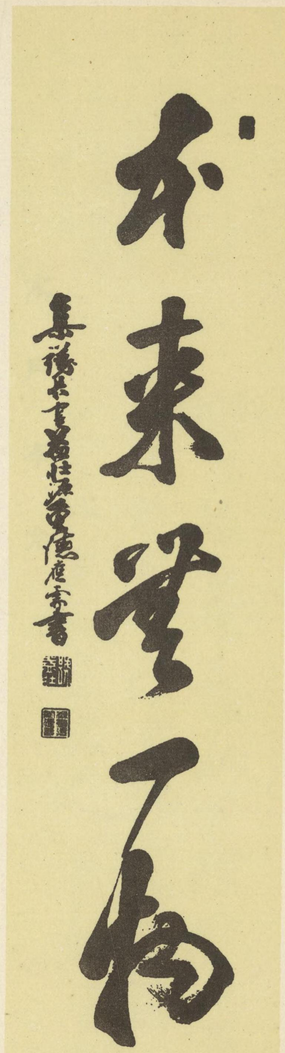
姉小路公知

送別

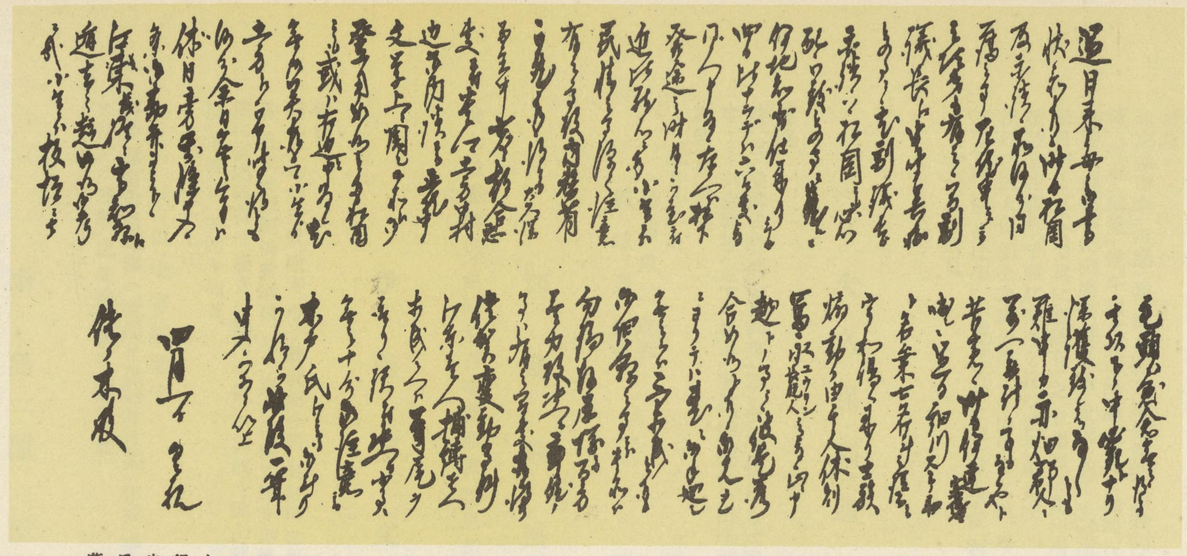
故鄕にかへる錦の袖の上に

つゝめや君か深き惠を

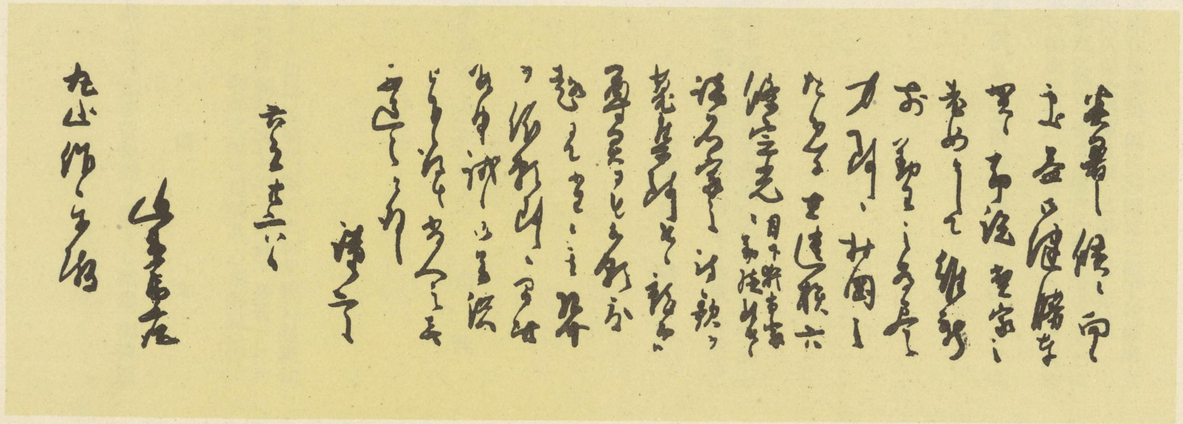
大原重徳筆



青木恒三郎氏蔵

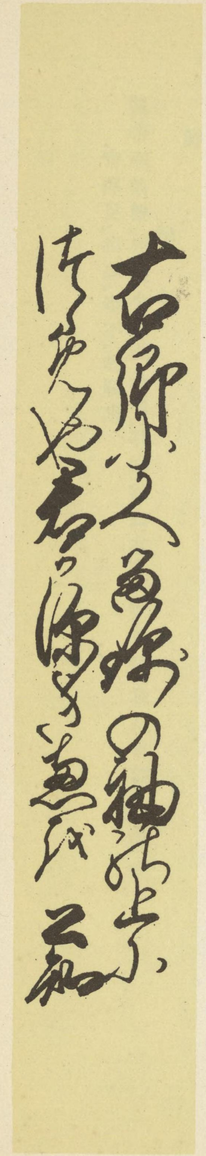


岩倉具視筆



侯爵佐々木行忠氏蔵

姉小路公知筆



武市半太氏蔵

近衛篤麿

丸山正彦氏蔵

木戸孝允

書簡

拝呈

朶雲謹而奉二敬誦一候、昨夕勝拝謁仕候節、大義御示諭、彼謹而敬服仕候次第、偏に御誠意之徹下仕候處と、難レ有奉二感佩一候、今朝大久保罷越、勝直々相談候て、尚又可レ然、大久保決而疎は無レ之事と奉レ存候、此度之御都合に御座候得ば、對二世間一候ても稍安心仕、箱館之事至二鎮定一候て、慶喜におゐても、世上に而目相立、是まで眞に徴誠有レ之、會桑等之爲に壅塞され居候事に御座候得ば、此度之實行におゐて、眞に徴誠も相顯れ、千載に其名を洗ひ候次第、是又朝廷之御大仁、相公之御公照より出候事に而、爲二天下一奉二恐慶一候、是邊之儀、得と勝等も奉體仕らでは不二相濟一候。先は乍レ恐御答まで に奉二言上一候。頓首百拝。

十一月十四日

大久保利通

書簡

被レ爲レ揃御安祥被レ成二御座一奉二敬賀一候。然らば明十二日、遙而御二示談申上度事件有レ之、乍二御苦勞一第七字より御參朝被二成下一樣奉レ願候。御旅宿へ出頭可レ仕之處、外御同寮へも相願候に付、乍二略儀一此段奉二拝祈一候。以上。

五月十一日

後藤象二郎樣

板垣退助樣

大久保一藏

西郷隆盛

世上毀譽輕似レ塵。眼前百事僞耶眞。追思孤島幽囚樂。不レ在二今人一在二古人一。

南洲

伊藤博文

書簡

御多忙拝察仕候。陳者、小子辭表速ニ接二御裁可之恩命一度、日夜夫ノミ相待居候間、閣下之御配神を懇願仕候。且又此際經濟會議員、及 東宮伺候も併テ御免有樣御執斗是又奉レ願候。若シ別ニ辭表ヲ必要トスル儀に御座候得バ、屬官へ御内命被レ下御取斗願上候。平素之知遇ニ甘ヘ、恐悚之至ニ得候共、心事御諒察可レ被レ下候。爲レ其匆々頓首。

六月二十九日

田中宮相閣下

博文

再伸、勳爵辭退之儀ハ、常則ヲ以、御許可難二相成一乎も難レ測候得共、今日迄辛苦報効ヲ圖りし微忠、御憐愍ヲ仰クノ外無レ之、此段御含可レ被レ下候。

副島種臣

詩

絶句

關帝廟前擊レ櫂廻。小瀛洲外唱レ歌回。湖山有レ主休二相怪一。我是曾觀二大海一來。

木戸孝允筆

男爵 藤田平太郎氏蔵

大久保利通筆

子爵 大浦家蔵

西郷隆盛筆（右）

伯爵 土方久元氏蔵

伊藤博文筆

富田孝次郎氏蔵

副島種臣筆（左）

矢島浦太郎氏蔵

勝安房

書

大智大勇、必能忍小恥小念。

山岡鐵太郎

書簡

西郷大人へ御出、御約束之通りにて御歸り、酒持參之事者、先方迷惑ニ相成候とも存候間御見合相願候。海江田氏も、殊之外盡力いたし候故、萬事ヲタヤカニ祈申候。已上。

八月十四日　　鐵舟

克己齋大兄

僧月照

辭世

曇なきこゝろの月もさつま潟
　沖の浪間に屋かて入ぬる
大君の爲にはなにかをしからん
　さつまのせとに身はしつむとも

陸奥宗光

詩

壯志未酬餘短身。斯行豈敢避酸辛。政治何日向開化。皇道如今屬維新。天下安危歸冷眼。邦家往石果誰人。一封泣草濟時表。不見此　君與此民　錄舊製

陸奥宗光

榎本武揚

詩

萍動青蛇渡水。荷疎白鷺窺魚。　錄先師霞舟友野先生句

梁川生

勝安房筆

加藤忠平氏蔵

山岡鐵太郎筆

小野友七郎氏蔵

僧月照筆

侯爵 西郷寅太郎氏蔵

陸奥宗光筆
男爵 澁澤榮一氏蔵

榎本武揚筆
藏田常水氏蔵

栗本鋤雲

詩

門巷蕭條夜色悲。鴈鶚聲在月前枝。誰憐孤帳寒檠下。白髮遺臣讀楚辭。

小野梓

書簡

昨日御出被下候由、折節梅やしきへ罷越、誠に失禮ニ御座候。何歟御急きの御よふはこれ無くや、但しは伊賀之御都合ともには無之哉、今日御宅へ御尋可仕心得ニ御座候處、少々風邪之心地に御座候得者、罷出かたく、幸に御近邊へ使者指出候へは、一寸御尋申上候。何れ明日者、共存同會へ出席可仕候へは其節萬事可申上、先つは御都合如何哉ト、御伺申上候也。

六月十八日　　梓

馬場樣

廣澤眞臣

書

功速成則亦速敗、勤勞無怠、

庚午正月　　障嶽

元田永孚

詩

渾然流動性之情、不費作爲長滿盈。據德依仁常自在。樂天安命又何爭。尊卑有分總歸禮。內外無間一是誠。悟得人心道心別。始知斯理正精明。

重野安繹

書

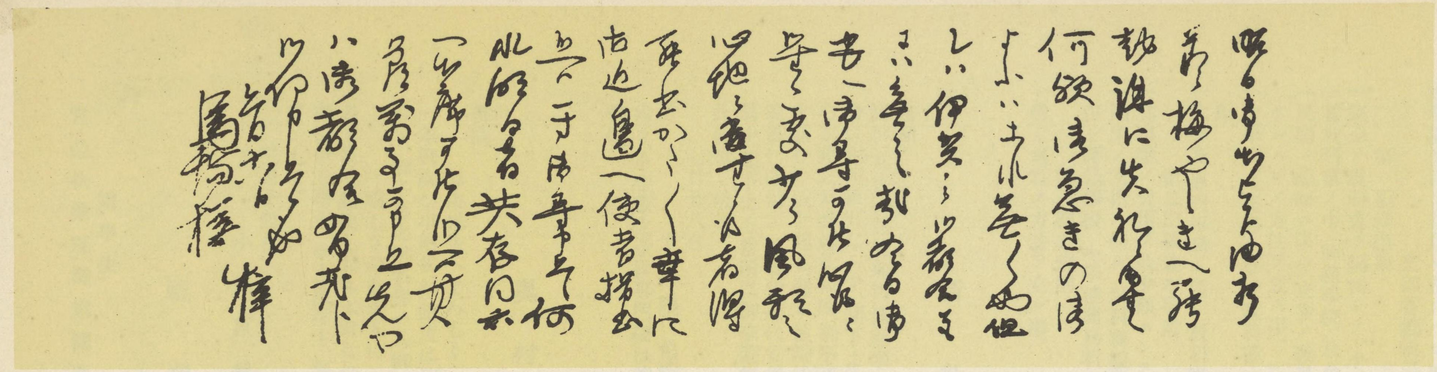
祥烟擁高臺物呈喜色。春如海。瑞穗溢堂嶋。天錫遐齡米作年。

浪華春海氏北堂八十八壽言

中村敬宇

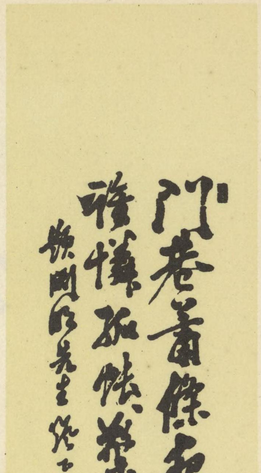
詩

悠然清思渺江天。不在眠鷗去鷺邊。說與雲山都不應。數聲柔櫓乍歸船。



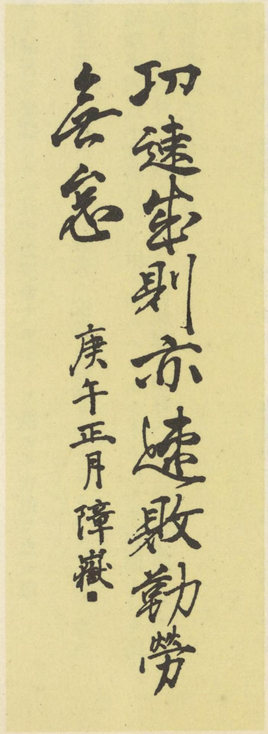
小野梓筆

馬場勝彌氏藏



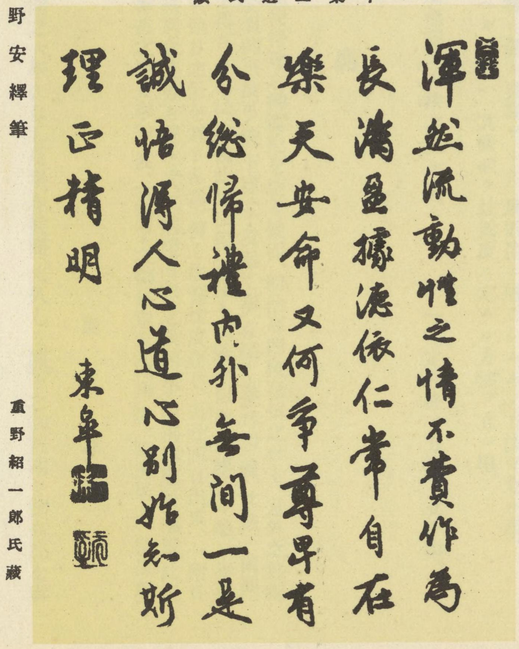
栗本鋤雲筆

曾宮祿祐氏藏



廣澤眞臣筆

伯爵 廣澤金次郎氏藏

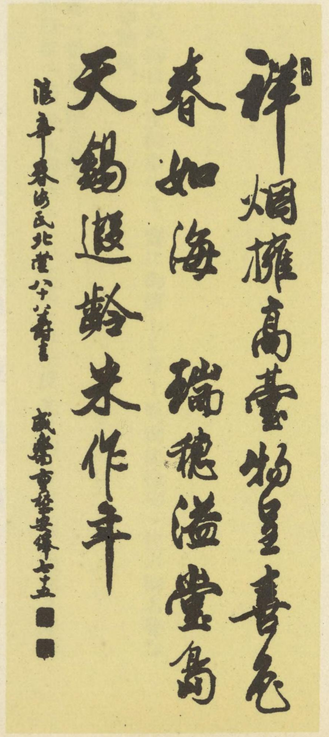


元田永孚筆

千葉立造氏藏

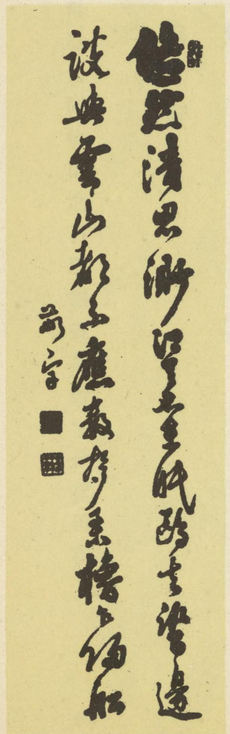
重野安繹筆

重野紹一郎氏藏



中村敬宇筆

關根正直氏藏



森有禮

帝國大學

訓令

其學校ニ於テ、教授方法ニ用ヒ來リタル數個ノ外國語ハ、明治二十七八年限リ廢止シ、二十八年八月ヨリ、英吉利語ヲ以テ其用ニ充ツヘシ。但學科ニ依リ、本文ノ趣意ニ則トリ得ヘキモノハ、來學年ヨリ之ヲ決行スヘシ。

文部省編輯局事業要項

第一編輯事業

一完全ノ教科書ヲ編輯シテ、小學校及師範學校ニ供給スル事。

一其教科書ノ中、師範學校、及小學校、殊ニ簡易科ニ供給スルモノハ貸與或ハ給與スルヲ以テ、目的トスル事。

一民間ノ編輯ニ係ル、完善ノ教科書ハ、師範學校、及小學簡易科ノ用ニ供スヘキモノトイヘトモ、陸續トシテ出サシムルノ方法ヲ立ル事。

一中學校、及高等小學校教科書ハ、其編輯主意書ヲ明ニシテ、公私共ニ完善ノ稿案ヲ出サシムルノ方法ヲ立ル事、

一大學及專門學科ニ係ル教科書ハ、專ラ私著ヲ奬勵シテ、其中最完善ナルモノヲ用ルノ方法ヲ立ル事。

第二出版製本事業

一其事業ノ費用ヲ最少額ニシテ需用者ノ便利ヲ進ムル事。

一國庫ノ支出ニ係ル、教科書編輯出版製本等ニ係ル費額ヲシテ、最低度ニ居ラシムルノ方法ヲ立ル事。

但シ師範學校、小學校簡易科ノ用ニ供スヘキモノハ、其費額ヲ最低度ニ定ムル方法ヲ立ル事。

第三檢定規則

一檢定無私ノ方法ヲ立ル事。　一檢定無誤ノ方法ヲ立ル事。　一檢定速終ノ方法ヲ立ル事。

新島襄

書簡

謹啓。其後御起居如何、愼而奉伺候。陳者先夜特殊之御高配を蒙り候而、明治專門校募集之件も、意外之好都合に相運候耳ならず、閣下よりも多分之金額御恵投可被下旨、千萬忝く奉存深く奉拜謝候。其後一兩回、右御禮之爲參趨仕候處、御不在に而拜謁を得ざりしは、遺憾此事に候。小生も御蔭を以而、爾來益々隆を得蜀を望むの感を起し、彌々奮勵仕貴諭に隨ひ、他日之計を爲さん爲、暫く休養仕度存じ、去廿四日出京、一兩日前橋に滯留、一昨日當所に御來遊相成候はゞ、幸甚之事と奉存候。其後格別之疲勞も覺へず、又病變も無之候間、乍憚御休慮可賜候。此炎暑中閣下にも當所に御來遊相成候はゞ、幸甚之事と奉存候。右閣下之御好意奉謝旁、御起居奉伺度如此候也。敬具。

七月廿八日　　新島襄

大隈伯殿閣下

尙々、小生輩之企候專門校は將來、是非民間之大學になし度奉存候間、未久しく閣下之御賛翊ト御高庇を奉仰候。

奥村五百子

書簡

杉山先生へよろしく

一筆御祝ひ申納候、扨此度は存じよらぬ御目出度御事にて、實に御嬉しく存上候。御前樣御一代の御名譽ならす、御子孫迄御名譽一入御目出度申納候。

嬉しさのあまりに

名も高く船出したもふ君なれは古郷へ錦きて歸り給へ

御伺申上事も、申上度事も、海山に御座候へ共、何れ御目もじの上萬々申上度、先は御よろこび迄、荒々芽出度かしく。

三月十四日　　奥村五百

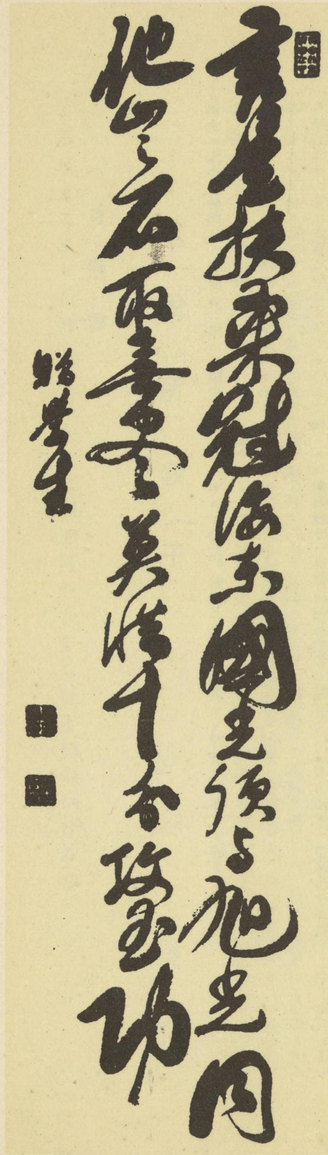
小笠原長生樣

福澤諭吉

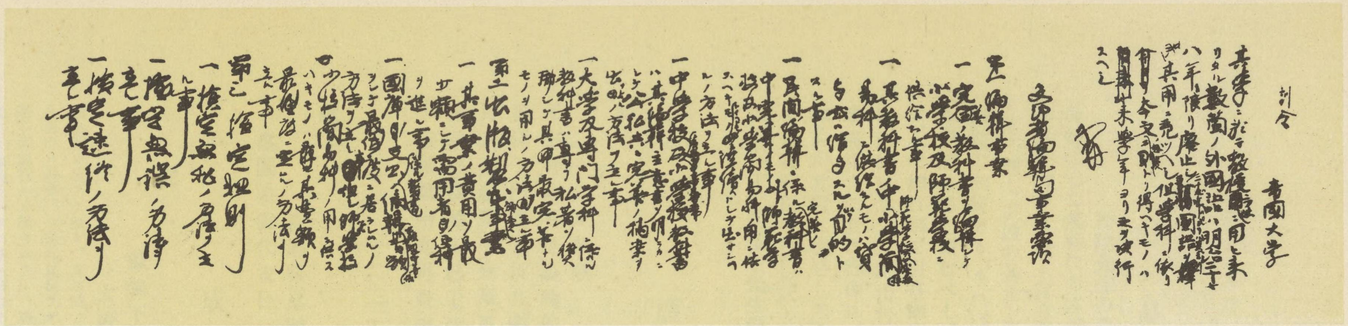
詩

贈學生

言是扶桑冠海東、國光須與旭光同。他山之石取無盡、莫惜十分攻玉功。

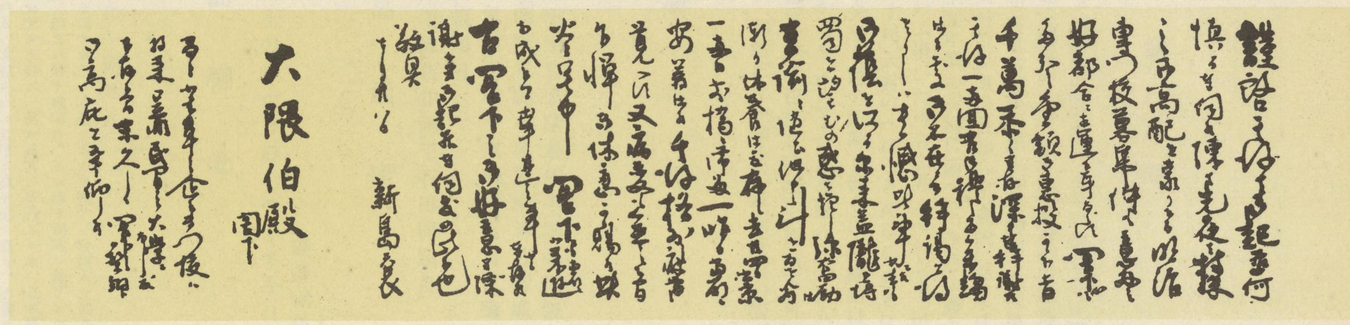


福澤諭吉筆



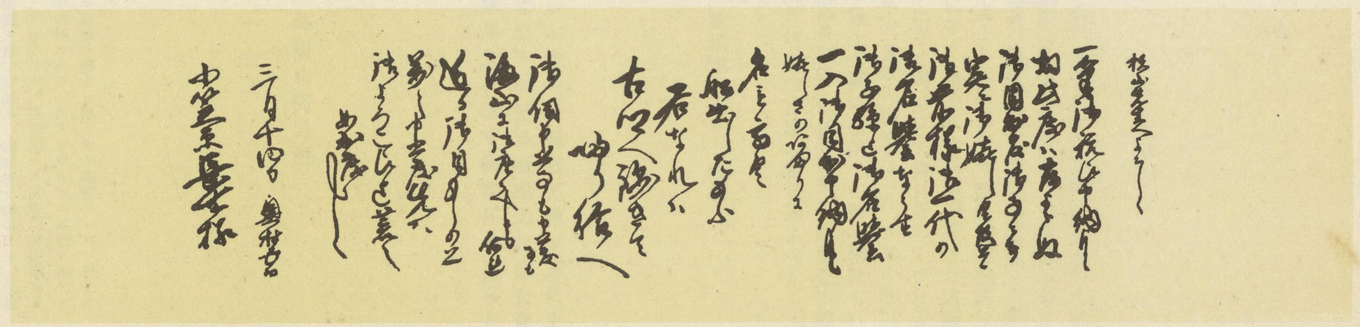
森有禮筆

木場貞長氏藏



新島襄筆

水谷乙次郎氏藏



奥村五百子筆

子爵小笠原長生氏藏

河野孝次郎氏藏

品川彌二郎

松陰先生の遺訓

吾幼にして漢籍にのみ浸淫して、尊き皇國の事には甚だ疎ければ、事々に恥思ふも多けれど、試に思ふ所と、見聞する所とを擧て、自ら省み、且は同志の人々へも示す也。抑皇統綿々千萬世に傳りて變易なき事、偶然に非ずして、即ち皇道の基本、亦爰にあるなり。蓋天照太神の神器を、天孫瓊々杵尊に傳玉へるや、寶祚之隆與天壤無窮の御誓あり。されば漢土天竺の臣道は吾知らず、皇國に於ては、寶祚素より無窮なれば、臣道も亦無窮なる事、深く思を留むべし。更に又祈年祭の祝詞に謂へる、狹國は廣く峻國は平く、島の八十島墜事無、また遠國は、八十網打掛て引寄如事などいふ事、いたづらに考ふべからず。臣道いかにぞと問はば、天押日命のことたてに、海行は水つく屍、山行は草むす屍、大君のへにこそ死なめ、のとには死なし、是なん臣道ならん。さて中世以來、漢籍大に世に行はれ、殊に孔夫子を道の宗師と仰しにぞ、論語は先儒も最上至極、宇宙第一の書と稱せられたるが、其言に感ぜし人も少なからず、中にも兒島高德の志士仁人、間有殺身以成仁。見義不爲無勇也の如く、加藤前田の可以託六尺之孤、可以寄百里之命、臨大節而不可奪の如きは、實に吾黨の師と云ふべし。

松陰二十一回猛士先生遺訓之一、明治三十一年十二月、加茂君の需めに應じて。

尊攘堂主人やじ拜書

廣瀨武夫

詩

正氣歌

死生有命不足論。鞠躬唯應酬至尊。奮躍赴難不辭死。慷慨就義日本魂。一世義烈赤穗里。三代忠勇楠子門。憂憤投身薩摩海。慷慨就義小墓原。或爲芳野廟前壁遺烈千年見鏃痕。或爲菅家筑紫月。詞存忠愛不知寃。可見正氣滿乾坤。一氣磅礴萬古存。嗚呼正氣畢竟在誠字。呶呶何必要多言。誠哉誠哉斃不已。七生人間報國恩。

指揮福州丸再赴旅順閉塞、錄舊作贈于石田機關長、

三島通庸

歌。

赤心報皇國　薩藩武臣　三島彌兵衛通庸

皇國の御代安けれと武士のあかき心をつくす今日哉

成島柳北

文

雜錄下

大道德家に一問せん

近來誰レ言フト無ク、支那流ノ道德道德ト云フコトノ耳朶ニ入ルヲ覺フ。偖何人カ能ク其ノ身ニ道德ヲ行ナヒ得ルヤト視察スレバ、多クノ人員中ニ於テ、一向ニ見當ラザル樣ナリ。然ラバ則チ虛喝カ、其レ然リ豈其レ然ランヤ。自已不道德ニシテ、世人ニ責ムルニ道德ヲ以テス是レ到底行ハレ難キコトヽ、居士ハ斷定セザルヲ得ズ、然ルニ其ノ流行スルヤ、必ズ眞ノ道德ノ本店アラン。頃日又一ノ道德問屋開業セリ其名ヲ集義社ト申ス其ノ廣告ヲ讀メバ、曰ク、本館ハ一ニ孔子ヲ以テ宗ト爲シ、心術ヲ正シ、國體ヲ重ンジ云々、猶種々ノ條目アリ、又生徒ノ學期ハ三年ニテ、初年ハ論孟學庸、大日本史、左傳、八家文、杜甫ノ詩等ナリ。二年ハ近思錄、詩書、日本紀、荀子、韓子等ニテ、三年ハ周體、周易、史紀、令義解、萬葉集、韓非、莊子等ナリ。而シテ西洋書亦敎官ノ取捨ニテ、用フ可キハ採ルトノ觸レ出シナリ。(斯文會ノ規則ニモ、曾テ其樣ナコトカ有ツタケナ)盛ンナル哉此館ヤ、初年ニ學庸論孟ヲ講究シ、二年ニ朱熹ハ近思錄ニ立戻リ、未ダ支那一部ノ史ヲ讀ムコト無クシテ、八家文ヲ講ズル抔、亦妙ト謂フ可シ。且ツ孔丘ハ如何ナル處ニ於テ、國體ヲ論セシカ、知ラズ何ヲ以テ此論ニ此人ヲ宗トシ得ルヤ、且ツ泰西ノ書ニ觀ル可キモノ多シトサ、之ヲ採ルト云フハ、是亦知ラズ何等ノ書籍ナルヤ、何等ノ學科ナルヤ、居士太ダ其ノ漠然タルニ惑フ。嗚呼入會ノ納金ハ二十五圓ナリト、二十五圓ノ金ハ判任官ノ月給ナリ、以テ尋常一家一月ノ暮ラシニ供スルニ足レリ居士ハ之ヲ道德問屋ニ奉ルハ、少シク閉口至極ニ思ハザルヲ得ズ。借問ス二十五圓丈ケノ利益必ズ有リヤ否ヤ。

稅所敦子

歌

月照雪

くるゝまてふりしみゆきのうへにいま月やさすらむまつのかけみゆ

品川彌次郎筆

廣瀨武夫筆

石田汀氏藏

加茂百樹氏藏

三島通庸筆

子爵三島家藏

正氣歌

死生有命不足論鞠躬唯應酬
至尊詔曙赴難不辭死慷慨就
義日本魂一世義烈赤穗里三代
忠勇楠子門憂憤投身薩摩海濱
慨就義小墓原或為芳野廟前壁
遺烈千年見鏃痕或為管家筑紫
月詞客忠愛不知寃可知正氣滿
乾坤一氣磅礴萬古存嗚呼正氣
畢竟在誠字如々何必要多言誠
哉誠哉斃不已七生人間報國恩

指揮福井丸再赴旅順閉塞錄旧作
贈予石田機関長

廣瀨武夫

赤心報皇國

薩藩武臣

三島彌兵衛通庸

稅所敦子筆

山階宮家藏

成島柳北筆

西森達也氏藏

—24—

◎第二十四輯豫告◎

玻璃版

◎天誅組の布告……
◎明治大正婦人風俗……
◎我國最初の航空船……
◎思ひ出の風景……
◎明治大正の名士……

記事

◎『幕末明治 文化大年表』（二十八頁）……

本篇は嘉永六年二月二日より稿を起して明治四十五年七月三十日に至る大小の事件にして本史に關係ある文化事項の一切を掲載す。

◎『皇室御略系譜及官制沿革篇』（三十二頁）……

官制沿革篇は慶應四年九月八日改元當時より明治四十五年に至る宮内省、樞密院、總裁局、内閣各省の沿革、人事異動の一切を盡して精細を極む。

◎『帝國議會』（十頁）……

明治二十三年第一回帝國議會より第二十七回に至る貴衆兩院議長、副議長、書記官長を初め各委員長、貴族院議員及び第一回各縣選出の衆議院議員名簿を掲ぐ。

◎『明治二年六月現在 列藩要鑑』（二十頁）……

明治二年版籍奉還當時に於ける名古屋藩德川中將德成（六十一万九千五百石）以下琉球藩尚泰に至る二百七十有藩の略史にして稀有の文獻である。

◎『大正年間 文化大年表』（十頁）……

大正元年七月卅一日より始まり昭和二年二月七日卽ち大正天皇御斂葬儀及び三月三日明治節御制定に至る十六年間の精細なる大年表である。

◎『大正年間 官制沿革篇』（十六頁）……

大正元年より同十五年に至る内大臣、宮内省、樞密院、内閣各省の沿革、人事異動を精記して剩す所なし。

前記各篇は是悉く本史に掲載せる有ゆる寫眞、繪畫及び記事と關聯し互に其缺を補ひ以て万全を期せしむるもの、本史は是等の各篇を添附する事によつて錦上更に花を加ふる概あり。正に絶好の史料である。

◎本第二十三輯には地色二色版を以つて幕末及び明治時代の名士の遺筆を掲げる事とした。此等維新の風雲に乘じて縱横に活躍した志士の颯爽たる風丰は既に掲載せる寫眞に於いて見らるゝ通であるが、今此の墨色淋漓たる遺筆を見れば、其風懷の崇高なるに誠に敬仰せざるを得ない。

◎殊に其人の人格は筆蹟に現はれるものであるが、此遺墨を見れば正に其眞なるを感ずるのである。或は豪快、或は洒脫、或は纖細、或は謹嚴、或は奔放不羈、誠によく其人を表はして興味津々たるものがある。

◎高杉晉作の『きれて吳れろとやわらかに……』の蜀魂の小唄や坂本龍馬の『此手がみ人にはけして〳〵見せられんぞよ』と『おとめさま』へ與へたる手紙等は、此無骨らしき長州及び海南の志士が案外なる優しき一面を示し又劍戟の巷にあつて猶綽々たる餘裕を見せて居るものも面白いと思ふ。

◎成島柳北の『大道德家に一問せん』の一文の如きも辛辣なる皮肉であつて『學商』の横行する現代に對しても正に頂門の一針である、『嗚呼入會納金ハ二十五圓ナリト……借問す二十五圓丈ケの利益必ス有リヤ否ヤ』の一句には蓋し現代の學商も苦笑禁ずる能はざるものがあると思はれる。

昭和十年九月二十日印刷納本
昭和十年九月廿五日發行
昭和十二年三月廿日四版發行

『幕末明治大正 回顧八十年史』 第二十三輯

定價 金壹圓貳拾錢（朝鮮、滿洲、小笠原、樺太、臺灣及海外は送料別）

編輯兼發行者 東京市京橋區銀座五丁目四番地 大澤米造
印刷所 東京市神田區須田町二丁目十九番地 東洋文化協會印刷所
印刷者 東京市神田區須田町二丁目十九番地 早川一郎
印刷所 東京市小石川區西江戸川町十番地 井口印刷合名會社
發行所 東京市京橋區銀座五丁目四番地 東洋文化協會
電話 銀座(57)〇四〇七番
〇六五六七番
振替口座東京三八三四八番

不許複寫
複製轉載

取扱所

大阪市北區堂島上三丁目三番地 關西一手販賣元 萬伸社
電話北二一八・二一九番 振替大阪三九八番

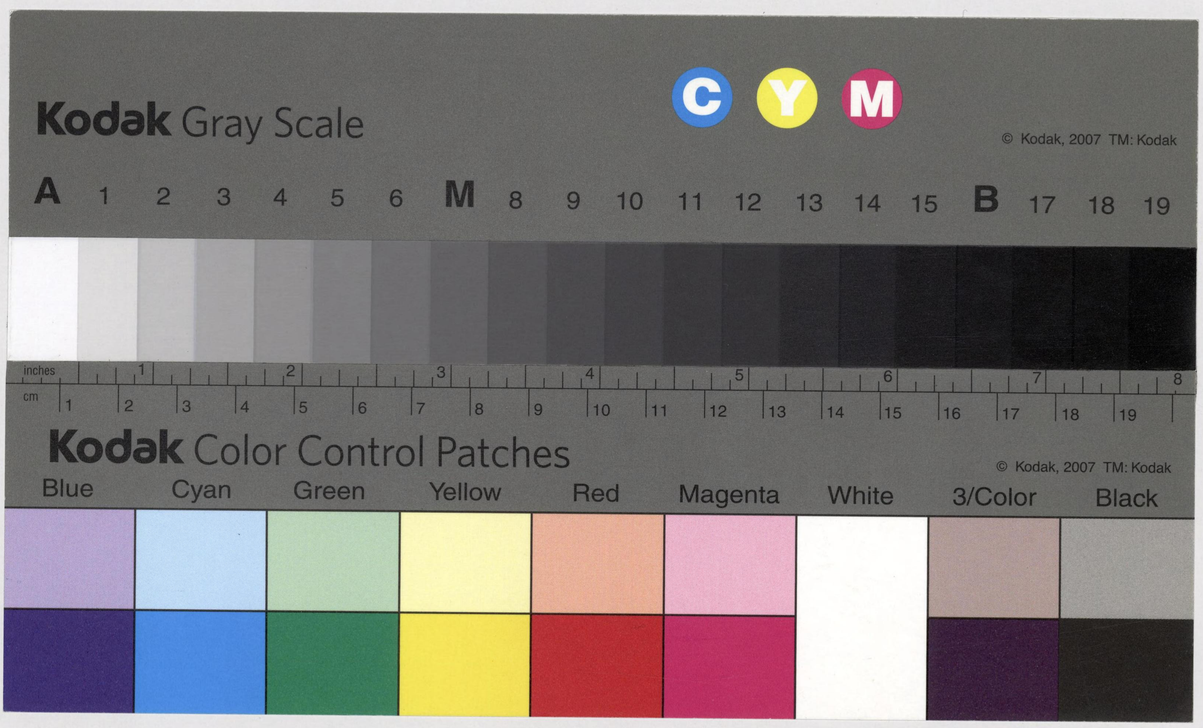
大阪市住吉區阿倍野筋五ノ六五 東洋文化協會關西支部
電話元町一八三五番 振替大阪二七二三番

神戸市楠町二丁目二ノ一 文博社
電話元町一八三五番 振替大阪二七二三番

小倉市京町七丁目一一六番地 太湖社
電話〇三六番 振替福岡一六八三番

大連市西公園町八九 東洋文化協會滿洲支社
電話六三四九番 振替大連二六八八番

京城北米倉町九四 大正通信社
電本局二七〇二番 振替京城七三四五番


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black